

社会福祉法人
新宿区社会福祉協議会
創立60周年
記念誌



目次

挨拶 2
祝辞 3

第一部 「想いを未来につなげる」～現場レポート～

60周年記念 会長インタビュー 9
現場の活動から
01 コミュニティづくり推進事業(大久保・戸塚地区) 11
02 パートナー懇談会(落合第一・落合第二地区) 14
03 地域交流とコミュニティカフェ(四谷・若松町地区) 17
04 ふれあい・いきいきサロン推進事業(笹塚町・榎町地区) … 19
05 ボランティア活動(柏木・角筈地区) 21
06 ファミリーサポート事業 22
07 成年後見制度利用推進事業 23
08 ボランティア・地域活動サポートコーナー 24
新宿社協の明日を描く〈経営計画策定委員会〉 25

第二部 「あゆみ」

新宿社協60年のあゆみ 27
新宿社協の仕事 35

第三部 「資料」(平成15年度～24年度)

会費・寄附金・募金等推移 39
一般会計・特別会計予算・決算 40
理事・監事名簿 43
評議員名簿 45

印刷物作成番号
2013-005
発行部数 2000部

社会福祉法人新宿区社会福祉協議会創立60周年記念誌

平成25年6月発行

編集・発行：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会
東京都新宿区高田馬場1-17-20
電話 03-5273-2941

取材・編集・デザイン・製作：株式会社アドリブ

表紙のデザイン：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会

表紙の絵：橋本弘子さん(新宿区西新宿在住)

新宿区社会福祉協議会60周年にあたり

新宿区社会福祉協議会は、戦後の生活再建が進む昭和28年6月25日、区内の篤志家が中心となり任意の福祉団体として誕生して、今年で60周年を迎えました。

昭和37年6月22日には都内で最初の社会福祉法人格を取得し、組織体制を強化しつつ、一貫して地域福祉の推進に努めてまいりました。

設立当初から、「助け合い」「支えあい」の精神は変わることなく、区民の暮らしを支え続けてまいりました。60周年を迎えた今日、区民の皆様から一定の評価をいただく団体に発展できましたのも、ひとえに会員の皆様、福祉施設や各種団体、企業の皆様などのご支援ご尽力の賜であり、深く感謝申し上げます。

私は、会長職を受任して13年目となりますが、この間50周年、60周年と節目の年の運営を任せていただき、また、昭和45年から40年以上にわたり小田急電鉄の一員が社会福祉協議会の運営に携わることで、社会福祉の推進に参画させていただいていることに、心から感謝申し上げます。

近年、家庭や地域コミュニティを取り巻く環境の変化は著しいものがあり、高齢化、単身世帯の増加、閉鎖的な住宅事情などにより、「自助」や「公助」には限界があり、「共助」の領域はますます広がっていると考えます。

社会福祉協議会は、区民が主体的に地域の課題を解決しようとする活動を支援し、地域の様々な資源を活用して人と人をつなぐ「中間支援組織」としての役割を、より高い専門性とコーディネート力をもって果たしていくことが求められています。

そのためには、安定した財政基盤と組織体制の強化、人材育成、きめ細かな小地域ごとの地域課題や生活課題の把握、社協パートナーの育成と協働の推進など、山積する諸課題に眼をそむけず、積極的に取り組むことが重要であると認識をしています。

今後、社会福祉協議会は、ますます増大する地域の需要に、より一層お応えできるよう、役職員とともに最大限の努力をしてまいります。

社会福祉協議会の活動を支える全ての皆様の暖かいご支援と、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人新宿区社会福祉協議会

会長 北中 誠



祝 辞

社会福祉協議会60周年を祝して

新宿区社会福祉協議会60周年及び記念誌の発刊まことにおめでとうございます。

60年前といえば、まだまだ新宿は戦災復興期で、昭和23年には民生委員法が制定され、26年に生活改善・向上を目的とした都立新宿生活館が開館し、27年には公益質屋が都から移管されるなど、区民の生活を支える福祉制度や施設が、ようやく整い始めた時期でした。

そんな時代の昭和28年、社会福祉協議会は、町会長や民生委員などが結成に動き、民間の自主的な組織として設立されました。

その後、37年には社会福祉法人としての認可を受け、民間福祉活動の拠点として、終始一貫、地域福祉の向上に努めておられることに、新宿区議会を代表して、改めて敬意を表し感謝申し上げます。

近年、高齢化、核家族化の進展や、一人暮らし等の増加に伴い、区民の福祉施策への要望も多様化しています。誰もが安心して住み続けられる福祉社会を実現していくためには、様々な公的施策の充実とともに、社会福祉協議会が目指す、自助、共助の活動が重要です。

現在、社会福祉協議会で実施している生活福祉資金等の貸付事業、判断能力が十分でない方への地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の運営などは、自助の生活を支援する心強い事業です。

また、ボランティア・市民活動コーディネート事業は、ボランティアをしたい方や団体と、必要としている方をつなぐものです。

何か困りごとがあったときに、頼れるご近所の方がいることや、災害時に支えてくれる人がいる、「おたがいさま」で支えあう地域づくりが、まさにこれからの社会福祉協議会の重要な役割になると考えます。

今後、社会福祉協議会が、民生委員や町会・自治会、さらに、地域の様々な方々を対象に活動するNPOなどの団体や企業等と連携・協働して、行政の隙間を埋めるような事業を積極的に展開されることを期待して、お祝いのごことばとさせていただきます。

新宿区議会 議長
おぐら 利彦



祝 辞

ともに支えあう地域社会を目指して

新宿区社会福祉協議会の60周年及び記念誌の発刊を心からお慶び申し上げます。

新宿区社会福祉協議会は、昭和28年に、区と民生委員、町会、保護司会などの篤志家を中心に成り立ち、その後、法人格を取得されました。

当初は、救済的な事業が中心でしたが、組織体制が整うにつれて広く地域全体を見据え、地域福祉の向上を主眼として着実に歩みを進めてこられました。

わが国の福祉施策は、平成9年から審議された「社会福祉基礎構造改革」で「措置から契約」へと大きく転換しました。社会福祉は一部の人の保護、救済にとどまらず、すべての人の生活の安定を支えるため、幅広い需要に社会が連帯して支援を行うという、地域福祉の考え方に発展してきました。

そうした変化を捉え、社会福祉協議会は、区民の自主的な福祉活動の支援、地域のネットワークづくり、そして「共助」の文化創造が大きな役割となりました。

また、平成12年、介護保険制度のスタートと同時に地域福祉権利擁護事業を開始し、その後、成年後見センターの運営を区から受託して、高齢者や障害者の権利擁護にも努めてきました。

現在、新宿区の高齢化率は23区の平均よりは低い状況ですが、高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯率は増加する状況にあります。

地域の中には、病気の方や孤立感を抱いている方など、支援が必要な方も多くいらっしゃいますが、年齢を感じさせず、いきいきと活躍されている方も数多く存在しています。

社会福祉協議会は、このような「支えが必要な人」と「支えたい人」をつなげ、お互い様の関係づくりをコーディネートして、いつまでも安心して住み続けられる地域づくりに貢献していただきたいと考えております。

60周年という大きな節目を迎え、社会福祉協議会が新宿区とともに、だれもが人として尊重され、ともに支えあう地域社会を築いていくことを期待します。共に頑張りましょう。

新宿区長
社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 名誉会長

中山 弘子



祝 辞

創設60周年を迎えるにあたり

新宿区社会福祉協議会創立60周年にあたり、新宿区民生委員・児童委員、主任児童委員、302人を代表しお祝いを申し上げます。

新宿区社会福祉協議会は、昭和28年6月に地域福祉の必要、且つ重要な担い手として地域の多くの人々の協力と要請のもと、任意団体として発足されたと伺っております。その折には、民生委員・児童委員とのかかわりは鳥の双羽の如く、無くてはならない付き合いであり互いに信頼厚い関係であったと聞いております。

今や職員60名を擁する、大きな団体となりましたが、ここ10年は、大変複雑になった環境の中、社会の変革、また福祉関連の法律改正・改革そして東日本大災害といろいろな問題と出来事の中、足元に目をやり、地域を思いやり、現実を把握し、福祉の先鋒となり、他地区より先行く、社協となりました。私たちにとりまして新宿区社会福祉協議会は誇りです。現在の社協を築き上げた事は先輩の方々の努力、地域の人々との連携、つながりがあり、速やかに対処できる体質を維持されてきましたことは、日々の努力の賜物と思っております。感謝し感激しており敬意を表するところであります。

さて、60周年と申しますと人と言う還暦です。めでたいと共に、厄年です。慎重に見極める事が必要です。そして新しく出発再生の年です。新宿区社会福祉協議会も蘇生し社会のニーズに応え生まれ変わるきっかけとなるべきです。気概のある人、人の温かい心を持ち、やる気のある若い職員と共に福祉のベテランとの連携を持っての変革も必要でしょう、期待するところであります。

基本的な事として、地域のより良い環境、皆が集いやすく、安心して安全な地域づくりを目指していただきたいと思っております。新宿区の特性を生かし、この街を生活の場、子育てのしやすい、最後の棲み家にしたいと思える場所作りです。そして住民私たちと寄り添っていただきたい。寄り添うと言うことは、その人の立場に立ち、同じ気持ちになれる優しい心です。このようなすばらしい、理想の新宿区社会福祉協議会を目指しましょう。

私たち、民生委員・児童委員も微力ながらお手伝いさせていただきます。これから先も更なる発展と充実をお願い申し上げます、60周年の祝辞とし、これから先をご祈念申し上げます。

新宿区民生委員・児童委員協議会 会長

貫名 通生



祝 辞

社会福祉協議会60周年に寄せて

新宿区社会福祉協議会60周年まことにおめでとうございます。

社会福祉協議会は、国民全体が貧困状態であった戦後期から高度経済成長期、低成長期と、社会経済状況が変遷する中で、法制度や行政サービスの間隙を埋めるように、その時代ごとに区民の暮らしを支える活動を続けてこられました。

私ども町会・自治会も防犯や防災、環境浄化、子ども祭りなどの様々な活動や行事を通じて、地域コミュニティの活性化と地域福祉の向上に努めております。区民が安心して暮らせる地域づくり、という点では、貴会が目指すところと一致するものと考えます。

新宿区では近年、子どもの出生数が微増の傾向にあります。子育て支援が多様化する中であって、未来の地域を背負ってもらう子どもたちは、家族とともに、地域の中で健やかに育んでいきたいものです。

社会福祉協議会が区から受託して実施しているファミリーサポート事業は、子育ての支援を受けたい利用会員と、援助を行いたい提供会員の橋渡しを行うなど、地域の力をうまく活用したしくみだと思えます。

一方で、高齢化率は年々上昇しており、一人暮らしの高齢者が増えております。見守りや声かけなど、町会・自治会としてもお隣同士の関係づくりに気を配っておりますが、社会福祉協議会の地域見守り協力員事業やふれあいいきいきサロンへの支援は、ご近所づきあいを育むことや孤立化を防止するためにも重要な活動と考えます。

今後とも、より一層地域福祉の増進のため、社会福祉協議会が、地域に根ざしたきめ細やかな活動を継続的に実践されることを期待して、お祝いのごことばとさせていただきます。

新宿区町会連合会 会長

大崎 秀夫



第一部 「想いを未来につなげる」
～ 現場レポート ～





社会福祉法人新宿区社会福祉協議会
会長 北中 誠

『長屋の花見』というのは、地域福祉の ひとつの理想型だと思うのです

わたることは、まさに終わりのない旅ですが、常にベストを尽くし継続してこそ成果が現れるものと確信しております。

新宿社協は、職員も優秀で、大きな組織力を持っています。何事も、我々があきらめず息長くやっていくことが必要だと思っています。

小さな声も感じ、 耳を傾ける福祉

社協は、オーケストラのコンダクターのような存在だと思っています。32万人近い人たちが暮らす新宿区の中で、民生委員や自治会、ボランティアなど多くの方々が福祉活動を行っています。その方向性、計画性を示さなければ効果的な活動は行えません。各演奏者が奏でる音楽を指揮し、素晴らしい音楽にするためには、社協がコンダクターとしての役目をしっかりと果たさなければならぬと考えています。

理想の「新宿型福祉 コミュニティ」とは 『長屋の花見』

新宿社協では、平成18年度に「だれもが安心して暮らせる新宿型福祉コミュニティの実現」を掲げた、「社協経営計画」を策定しました。これは、孤独や絶望などの実存の蔓延する現代の中で、住民参加型の福

祉コミュニティを作っていくこと計画したものです。しかし計画を作っただけではなく、そこからいかに肉付けをして実現していくかが重要です。「絵に描いた餅」では腹は満たせませんから。

私たちが描いている理想は、地域の人たちが共に生きる「向こう三軒両隣」の世界。落語に「長屋の花見」という噺がありますが、義理人情に厚い大家さんの、長屋の人たちに対する気持ちが良く描かれています。みんな一緒に花見をし、ケンカもしますが大家さんはそれを大きな目で見ています。この噺こそが、「今後の指針とすべき共生の社会」ではないかと思えます。地域の人たちのコミュニティをより固め、広げていくためには人の輪を広げていかなければなりません。そのためには、生の情報が大切です。文字ではなく、また物質的でもなく精神的なものかもしれません。フェイストゥフェイスで長屋のような交わりをもてる、日常の中にそのシステムを作っていくこ

息の長い仕事を スピード感を持って 進めて行きたい

しかし、コミュニティの実現はなかなか容易ではありません。そのために、私は実践し、実績で示さなければ、人々にその実情は想像してもらえません。そのために、モデルハウスのような「モデル地区」を作り、実績を赤裸々に直視してもらうのも良い方法ではないかと思えます。

福祉というのは、息の長い仕事です。性急に結果をとはいきません。「倦まず弛まず」続けることが大事だと思います。持続し続けられれば、賛同者が現れてだんだん輪が大きくなっていくのではないのでしょうか。福祉に携

コミュニティの基本は、 役割を引き受け参加する事



01

コミュニティづくり
推進事業
(大久保・戸塚地区)



平成25年2月17日。乾いた冬の寒風が吹く中、ここ都営百人町アパートの広場には、朝早くから多くの学生達がお祭りの準備をしていました。

夏に続いて2度目の「さんさん冬祭り」と名付けられたそのイベントとは、この地域で避難生活を送っている東日本大震災被災者の家族、そしてそこに住んでいる住民の方々を招待して開催された「芋煮会」の事です。

「しばらく顔をみなかったわね。」とお年寄りと学生が何気ない会話を交わしていますが、住民と学生との関係は、一朝夕にできたわけではない事はすぐ分かりました。

集まったボランティアの学生達は約90名。学校は、新宿の地

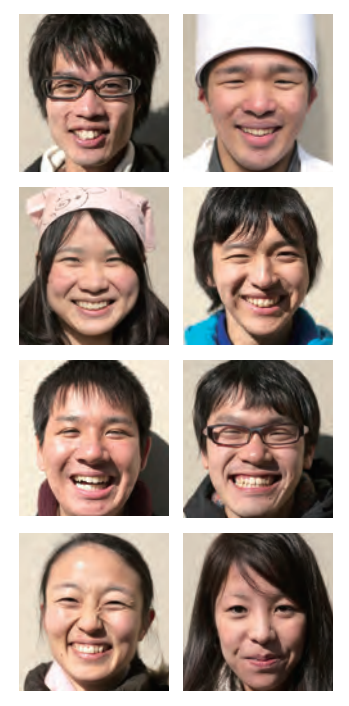
元の早稲田大学をはじめ関西から岩手までと様々です。

「3・11の後、私達学生は『自分に何ができるのか』との想いは共有していたのですが、被災地まで行く資金もない中、具体的にどのような形で活動すれば良いのか分かりませんでした。」

「元々の活動を通じて新宿社協さんとのつながりがありましたので、仲間の学生達の想いを具現化する為に社協さんに相談したのが始まりでした。」

「私達の想いを地域の方たちにつないで『場』を作って頂いたおかげで、活動ができるようになりました。さらに色々な大学が横につながっていく事で、情報も沢山集まり、新しい企画もどんどん出てきています。」

さんさん冬祭りに参加していた学生たち

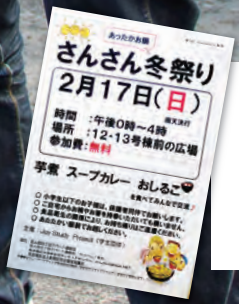


「避難生活を送る子供達へ勉強を教えるボランティア活動がきっかけです。」(立ち上げから参加している早稲田大学の加藤さん、学習院女子大学の石野さんと國安さん)

学生パワーで地域に新しい風が吹く!



学生達と百人町アパートに住む住民として被災者家族は、新しい関係性を作り始めている。



新宿型福祉コミュニティを目指して、
様々な人達がつながり集う
さんさん冬祭り

「今回の芋煮会も、岩手の『Donabene』(土鍋ネット)の企画を私達流にアレンジしたものなのです。」

初期から活動に参加している学生達は、人がつながり活動が広がっていく手応えや面白さを話してくれました。

都営百人町アパートと新宿社協

被災者の家族、学生ボランティアそして地域の住民を「つないだ」事でこのような新しい動きが生まれましたが、そこに至るまではやはり新宿社協の時間をかけた活動がありました。

百人町四丁目アパート連絡会会長の大坂さんは「高齢化の象徴みたいなこのアパートには、マスクミヤ政治家などから色々なアプローチがあるけど、継続的に応援してくれている新宿社協さんが一番信頼できます。そこに学生さん達の元気が加わり、少しずつですが新しいコミュニティが芽を出しているような気がします。今回新宿社協さん

「今回、岩手からの学生ボランティアが来てくれて、私達も自治会が中心となり、地域の問題を地域で解決していかなければと思っていました。」と、このお祭りが「一時的なイベントではなく、これからの自治会運営にとっても新たなスタートになる事をお話し頂きました。」

また、ある役員の方にも話を伺いました。

「若い人たちがこうして来てくれると盛り上がるわね。被災者の方達にとっては物資面のサポートだけではなく、こういった『お隣さん同士のふれあい』というんですかね、そんな事が大事なんじゃないですか。やはり見知らぬ土地で気持ちのうえで大きなストレスを抱えているところに、学生達が顔を出すようになって、子ども達も喜んで



「地域と社協の継続的な関係性が、信頼を築きます」(百人町四丁目アパート連絡会会長の大坂さん。)

「純粋な気持ちで来て頂いている学生さん達が先頭に立って動いてくれる事で、私達住民も色々刺激になるし、動いていくきっかけになっていますね。お互いなかなかきっかけがない中で、被災者のご家族ともお知り合いになれるのは良い事だと思います。」





学生と新宿社協

このプロジェクトの主役は学生であり住民の方たちです。

元々早稲田大学のサークルと新宿社協がタッグを組み「寺子屋」と称する被災者の子どもへの学習支援を始めたのがきっかけです。

活動を始めていくと、避難生活を送る子ども達にとって本当に必要なのは「友達作り」である事に気が付き、プロジェクトとしてスタートさせたのが『Joy Study Project』です。

さらに活動の中心である交流サロンを運営していると、子ども達だけではなく大人達の「場」も必要である事も感じら

れるようになり、幅広い世代にも声をかけました。

今ではこのサロンを楽しみにしている高齢者も増えてきており、お祭りにも沢山の住民の方々が参加されていました。

新しい新宿型 福祉コミュニティへ

新宿社協と一緒にこのプロジェクトを引っ張る大口さんは、

「私達の一番の強みはフットワークとネットワーク。利害関係のない学生は直ぐに友達を作れるし、行動力はある。だからそれを発揮できる場所さえあれば、みんな生き活きと動くんですよ。色々な人をこのプロジェクトに巻き込んできましたけど、私自身は一緒に動きたい！という人に思いを伝えていくだけなんです。実際には学生自身がプロジェクトを動かしています。」

また、色々話を聞くと、つながったのは住民だけでなく、企業へのアプローチも学生主体で行い、成果を上げているよう

す。例えば今回のお祭りに使った備品(炊き出しの鍋やコンロなど)は、企業への企画提案をして、企業が住民の為に提供してくれた災害用の設備です。

今回の取材を通して素晴らしいと感じたのは、社協の地区担当者が黒子となり、学生達の力と気持ちを地域と結びつけ、被災者支援にとどまらず新しいコミュニティを作っていく流れが出来ている事です。継続性をどうするかは課題ですが、個別の支援を通じて地域の中心人物を育て、その枠組みを伝えていく仕組みを作る事が重要で、実現すれば、新宿型福祉コミュニティ作りの一つのモデルケースになっていくと思えました。



「私一人では何も出来ませんが、コミュニティ作りの難しさを、皆の力で、やりがいに変わって行きたいです。」(立教大学・大口さん)

学生が運営する多世代交流サロン「さんさん広場」

お祭りから1ヶ月程たったある日、「さんさん広場」と名付けられたサロンをのぞきました。お祭りとはちがった、ゆっくりとした時間の流れる中、子ども達は勿論、大人達も集まってきて学生達と談笑している姿が印象的でした。

「まだこの暮らしにはなかなか馴染めないけど、こうやって故郷の新聞を読みながら、若い人たちと話をするのはとても楽しみです」と参加者の方がおっしゃるのを聞く中で、話の相手をしていた学生が「実は私の方が、おばあちゃんの話聞くのを楽しみにしてきてるのですよ」と、なごやかに話をされていました。



さんさん広場で学生達と遊ぶ子ども達

現場の活動から

02

パートナー懇談会
(落合第一地区・落合第二地区)



桃の節句の懇談会

新宿社協60周年記念イヤーの今年、落合第一地区・落合第二地区パートナー懇談会が3月3日に開催されました。

新宿社協の落合地区担当チームと落合地区部会(社協理事会の補助機関)委員が、地域のボランティアさんや、地域活動に興味のある人、そして住民の方々に声をかけ実現した交流会です。「知る・交流する・

学ぶ」が一度に体験できる今までにない交流会という事もあり、途中椅子が足りなくなるほど大勢の方が来場され、イベントは大盛況でした。

地域の中で小さな種まきから始まったボランティア活動の芽が、人と人の出会いとともに成長し、社協職員が応援しながら開花する様は、桃の節句にふさわしい温かなイベントになりました。



新宿社協の地域に根ざした活動。
ボランティアの種が芽を出し、
人と人がつながり、そして
地域活動に広がろうとしています。



ボランティア活動の想いをつなぐ、場づくり・人づくり
落合第一・落合第二地区
パートナー懇談会

場づくりの「仕掛人」

「『オープンスタイルのカフェ形式』と言うのは、交流会にありがちな堅苦しさを無くそうと工夫された企画です。会場をテーマ毎のエリアに分け、真ん中にカフェスペースを設けて来場者や参加者がお茶を飲みながら語り合うという場をデザインしました。」

このスタイルを企画したのは、ワークショップデザイナーとしても活動されている、落合地区部会の副部長、武田さん。地域の中では若手のリーダーです。



「僕ら若い世代も気軽に参加できるように出します。」(武田 副部長)



地域でつながる様々な人たちにお越しいただき、新しい出会いが沢山生まれました。

「ここは様々な人たちが出会いながらつなぐ場です。机が整然と並んでいる説明会では面白くないですよ。お年寄りだけでなく、地域の私達若い世代を巻き込んで行く為にはこんな感じの気楽なカフェスタイルがいいんです。」

武田さんの狙い通り、来場者からは「近所にこんな活動をされている方々や、集えるサロンがあったなんて知らなかった。」「お茶を飲みながら、ボランティアさんの生の話を聞いたのが良かった。」との声が多くありました。

様々な人たちが集まり、つながる場

ボランティア活動を紹介する出展者として集まったのは、ふれあい・いきいきサロンの主宰者など地域のボランティア活動をしている方々、学生、そして新宿社協の会員さん。それぞれが日々活動をしています。なかなかこうして一堂に集まる事はなかった。情報交換の良い機会になっていました。

たとえば、足が弱く思うように外出ができないため、家の中で得意のビーズバックを作っていた90歳の女性は、会場内で意気投合した小物づくりの得意な方々と、編み物サロンを上げることに。喜んでいた。また、区外に通学している地域の中学生が、チラシ配布やお茶係としてお手伝いいただいた目白大学生のボランティアグループに参加することになったりと、出会いの輪は広がっているようでした。

また、区外に通学している地域の中学生が、チラシ配布やお茶係としてお手伝いいただいた目白大学生のボランティアグループに参加することになったりと、出会いの輪は広がっているようでした。



活動している方々にとっても、様々な情報が集まりました。



地域活動に興味のある方にとっては、多くの出展者の話をじっくり聞ける良い機会でした。

ミニステージでは、新宿エコレインジャーショーや高齢者施設への出張ボランティアのパネルシアター、ほかにもクラリネット演奏など盛りだくさんの内容で、終始にぎやかなムードの中、会は進行していきました。

また、ボランティア活動に興味があったり利用したいと思っっている方々は、地域のグループやサロンの方からの話を興味深く聞いていました。

サロン立ち上げ応援団

地域のサロン(ふらっととひとやすみ)の代表の廣瀬さんは「私達一人ひとりの活動は小



「私達が欲しいのは金銭的な側面もありますが、サロン運営のノウハウであったり、こうしたイベントを通じた横のつながりの中での情報交換などのソフト面であったりするのです。」(ふらっとひとやすみ代表・廣瀬さん)

り』を理解して、「一緒になって動いてくれるのは、社協さんの良い所です。」と、廣瀬さんのサロンで使われている『陶器の食器』に込められた想いをお話いただきました。

色々な想いを汲み取る「場作り」

イベント会場で、多くの人たちから様々なお話を聞く中でコミュニティづくりに大切なことは、「地域の中の小さな声をどれだけ汲み取る事ができるか。そしてそれをどれだけ形にして行く事ができるか。」という事を感じました。

地域の中で、お互い様の気持ちを育てて紡いでいく為には、その場所で暮らす住民の方々の

「想い」に寄り添っていかなくては、本当に住民主体の福祉コミュニティはできないでしょう。その「小さな声」と、ひとつひとつ真摯に向き合い、地域の中でボランティアや住民と一緒に汗をかく、というまさに『黒子』的仕事こそが、新宿社協の重要な使命のひとつであるように思えました。

今回の懇談会では、ふれあい・いきいきサロンやボランティアグループだけでなく、暮らしのサポート事業で個別支援をおこなうボランティアさんも顔を合わせ語り合う事で、また新たなつながりが生まれ、地域の連帯になっていくでしょう。

新宿社協の活動の成果と同時に、ひとつの出発点になるイベントになったと感じました。

ご近所なのに、普段なかなか他の活動なんて聞けないから勉強になります。



学生も地域の方と直接交流することができました。



03

地域交流と
コミュニティカフェ
(四谷・若松町地区)



「お花見交流会」と「カフェだんだん」

新宿社協は、「社協経営計画2009〜2013」に基づき、地区担当制による地域支援を行っています。

地域に密着した「顔」の見える関係づくりを進めるなかで、現場の生の声や様々な課題が直接聞こえてくるようになりました。

新宿社協では、ボランティアさんの気づきを共有し、想いを形にしていくプロセスにも多くの関わりを持っています。

フラダンスから炭坑節まで、何でもあり！

新宿区の委託事業として実施する「地域見守り協力員事業」は平成12年に始まりました。

見守り協力員によるひとり暮らし高齢者への声かけ・見守り活動は、様々な出逢いとネットワークを生み、住民の方が自ら新たな活動を開始させるきっかけにもなっています。

今回取材したのは、若松町地区で活動する見守り協力員の方の取り組み、「お花見交流会」です。高齢化が進む集合住宅地で、地域交流を目指して見守り協力員さんが企画をされました。

自治会の方がこの日のために描いた満開の桜が咲き誇るなか、約80名の住民やボラン

ティアの方が楽しくおしゃべりしています。

舞台では、地元の高齢者クラブのメンバーがダンスミュージックののって踊りを披露したり、日舞の先生から小さなフラダンスーまで、盛りだくさんの出し物が続き、最後は参加者全員の盆踊りで大盛況でした。

若松町地区お花見交流会は、見守り協力員さんの手作りの催しで、平成13年から毎年続いています。

出演ボランティアも見守り協力員も、心をひとつに、楽しみながら、高齢であつてもいきいきと安心して暮らせる地域づくりに関わっています。



ラ・ラミュールによるハープ演奏



美味しいコーヒーを手に話がはずみます。

みんなが主役の地域交流 カフェだんだん



「ゆっくり」と言う意味と、西日本の方言で「ありがとう」

グループ、オンリー・ワンの企画と想い

区の福祉事業の転換を踏まえ、地域で33年間、民生委員として活動する鱒沢さんは以前より考えていた活動をスタートさせます。「長く民生委員をやっていると、地域に根ざした活動が出来る反面、新しい取り組みに対して消極的になってしまいます。しかし地域の輪を広げて進化させて行く為に新しい風が必要だと5、6年前から感じていました」「ちょうどその頃から新宿社協も『地区担当制』を始め、担当者が現場と密着した活動をすすめるなかで、現場と社協さんとの情報交換がスムーズになつてきました。」



「参加するみんなで作りあげる居心地よいカフェに。」と、グループ、オンリー・ワン代表の芳賀さん

「私自身、母親の介護でここ地元に戻ってきました。そしてあの3・11。地域の中で感じた『支え合いや絆が希薄となつてい

「このカフェの考えでユニークなのは、ひと言で言うのと、次の高齢者、つまり私達の居場所を作るしかけをしていることなんです。」と今回の主旨を話します。

「私達は、現実には起きていない事に対し、インフラの整備という観点で動かざる得ない所がありますが、社協さんが音頭をとる事で、住民の方主体の企画を実現していただいています。行政と社協がタッグを組み、住民を支援して実現した事がポイントだと感じます。」と話されました。

住民のパワーで 地域に根付くコミュニティを

この春に「ことぶき館」から「シニア活動館」へリニューアルした区施設では、シニア世代を対象に、ボランティアなどの

社会貢献活動や仲間づくりの拠点を目的に、様々な活動が始まっています。



鮮やかな衣装で歌と踊りを披露する第二朋友会の皆さん。

見守り協力員が主催する お花見交流会

04

ふれあい・いきいきサロン推進事業
(筆筒町・榎町地区)



早稲田町の「榎町地域センター」で、毎月第2日曜日に開催されている「ほっとサロンえのき」。平成16年より行っています。

高齢者のいこいの居場所として地域の人が集まって、食事が行われています。

開始は10時。ボランティアのみなさんが食事作りを行う中、約20人の参加者は、食事前の「ふれあいメニュー」を楽しみます。

ふれあいメニューとは、手芸や折り紙、合奏などのお楽しみイベント。手芸が得意だったり、折り紙を学んでいたという、セミプロのボランティアさんから教わりながら、メニューを進めます。

今日のメニューは、参加者全員で「ポケットティッシュカバー作り」に挑戦。「襟の部分は縫い



春を感じるメニューです。



おいしい食事に幸せをかみしめ…。

にくいからひと針ずつでね。」とアドバイスを受けながら、楽しく没頭する時間が過ぎていきました。
11時半になると、いよいよお楽しみ会の食事会。筍ごはん、かきあげ、菜の花の生姜びたし、よもぎ白玉など、旬の素材の献上がテーブルに並びました。
「このおだんごころるつるしてきれいだね。」「美味しいね。こういう場所を作ってもらえてありがたいよね。」「月1回だけでも嬉しいよね、ほんとに。」と笑顔の参加者たち。参加費は食事の実費500円のみです。
会のお世話をしているのは、地域ボランティアの中村さん。「おうちに訪問すれば安否確認もできますが、こうやってお出かけの機会があれば高齢者のみなさんも生活にメリハリができますよね。参加者のみなさん同士で交流を深めてもらって、食事で季節を感じてもらえるように工夫しています。」

美味しい食事と楽しい会話のいきいきサロン

お寺でのんびり、井戸端会議

原町・いきいきサロン逢愛



顔を合わせ、おしゃべりする事で、ご近所のぬくもりあるネットワークが育まれていました。

ご近所のSOSもキャッチする サロン活動の老舗

「いきいきサロン逢愛」は、早稲田駅から夏目坂の途中、常泉寺の釈迦殿を借りて平成17年より行われています。先代の住職が、民生児童委員と新宿社協の理事を務めていたことが縁で、この場所を借りることができたそうです。
「今はサロンが認知されてきたけれど、この『逢愛』を立ち上げる時はサロンは知られていなかったため、町内会活動との違いや福祉施設との兼ね合いなど、趣旨説明を丁寧におこないました。」
「先代の住職は地域活動にとても熱心な方で、サロンには度々顔を出されてお話をいただきました。楽しみにされていた方も多かったです。」
「今日は編み物の日ですが、何も企画しない日もあります。ただ集まっておしゃべりするだけ。こんな、のんびりしたサロンだから長く続いているのかも知れませんが、サロン立ち上げ当初からずっと一緒に運営を手



ボランティアさんの笑顔で会場も自然と明るくなります。

助けしてくれる仲間がいることが、サロンを続けるうえで、とても心強く、ありがたく思っています。」
と、サロンを運営する貝田さんは立ち上げのいきさつや今のサロンについてお話をしてくれました。
旦那様の介護をされている参加者のおひとりは「私にとっては、ここは本当にいい息抜きの場所なの。手芸は苦手だからただのおしゃべりの日の方が気が楽だわ。」とおっしゃっていました。
また、このサロンで社協の地区担当者として知り合えた事がきっかけで、ご近所の心配ごとを相談できた話も伺いました。
「気になる心配な方について社協の地区担当者に相談をして、地域での協力の方法をアドバイスしていただいたこともありました。」
ここがきっかけでできたご近所ネットワークが、大きな助けになったと喜んでいました。



一緒に集い、一緒に食べる幸せサロン
榎町・ほっとサロンえのき

細かい配慮をしながらの盛りつけをアドバイスしています。

05

ボランティア活動
(柏木・角筈地区)



新宿社協の多岐にわたる事業は、主旨を理解し協力して活動をしているボランティアさんや会員の協力なしでは成り立ちません。

今回、柏木・角筈地区で地域活動をされているボランティアさんにお話を伺い、活動の内容、そして新宿社協への率直な意見もお聞きしました。

想いをつなげる地域活動の現場から

ボランティアさんからのメッセージ



私は、地域の中の「社協応援団」です

会員として社協を支援し、地域で社協の活動を広めている加藤さん。

インタビュー
01

新宿社協の会員であると同時にサービスを手く利用され、また同じ悩みを抱えている方に積極的に新宿社協を紹介している加藤さん。「新宿社協は、おつきあいしてみないと良さが分からない。そこがよい所でもあるし駄目な所。」と穏やかに微笑むお顔からは少々

辛口の意見も出ました。

「新宿社協のおつきあいのきっかけを教えてください。」
高齢の母が退院してきた時、自宅に簡易トイレを備え付けてもらった事でした。元々「ちょっと困りごと援助サービス」に利用登録をしていたので、社協さんに相談したのです。

「トイレの備え付けですか？」
「ちょっとした力仕事だったのですが、うちみたいに女所帯では、その『ちょっとした』仕事を頼める所ってなかなかないので。本当に助かりました。」
「それがきっかけで、新宿社協の紹介を積極的にされるようになったのですね。」
「そうですね。利用してみ始めて分かるんです、社協さんって。それ以降は、職員の方とも色々お話しするようになって、理解も深まりました。その後、地域の方たちに社協さんを積極的に紹介するようになったのです。」

「社協を広報していただく事もひとつのボランティア活動です。」

すね。

「そう、地域の中には『早く社協に相談すれば良いのに』と思うお宅が沢山ありますね。特に高齢の方で、お子さんがたまにしか帰ってこないなんてお宅は、いつまでも蛍光灯がつかなくてそのままになっているお宅もまだ沢山ありますよ。」
「では最後に、社協さんへ何か注文やご意見があれば。」
「もともと地域に入っているって、社協さんのPRをされたらよいと思います。町会や自治会とのパイプを作ってどんどん宣伝するべきです。それから、地域に密着した拠点を増やしたら利用者は増えると思いますよ。だって、私が紹介した方たちは、皆さん喜んでいきますから、私も嬉しいんです。」

インタビュー
02

「素朴で穏やかなお人柄から、利用者から度々声のかかる北海道出身の石川さん。故郷から遠く離れた新宿で、日々のボランティア活動をされている」



地域での清掃ボランティアとして活動している石川さん。

人の役に立っている実感が、自分の喜びと健康の素

現場から見える風景を、ざっくりばらんにお話いただきました。

「新宿社協のおつきあいのきっかけを教えてください。」
70歳を過ぎてから自分にか出来る事がないか、地域のボランティアの相談窓口に行ったのがきっかけですね。ふらっと、

寄つてみたのね。

「現在はどんな内容のボランティア活動をされているのですか？」

「社協さんから、月、数件の紹介をもらって活動していますよ。内容は地域での清掃活動やイベントの設営作業などです。まあ、さすがに高い所や危ない作業は社協さんが断ってくれるからやらないけど。だから、ほとんどは皆さん喜んでいただいていますけど、ただ時々つらい時もあるね。」
「「つらい時」とは、活動内容のことですか？」

「いいえ。活動内容ではなく利用者さんから「ありがとう」の言葉もかけられなかった時だね。利用者さんの中には、昔、人に頼みごとをして、いやな思いをした人もあるから、ボランティア活動、と聞いても、後で見返りを要求されるんじゃないかと思って、素直に「ありがとう」が言えない人もいますよ。本心じゃないこととはわかっていても、そんな時は少しつらいね。」
「そのような時はどのように

されていますか？」

「人と人が接する現場だからいろいろあるけど、新宿社協さんが間に入って相手の気持ちをやらわけてくれるから、安心して活動できるよ。この歳で人様の役に立ち自分の健康にも良い活動ができてありがたいね(笑)。」

06

ファミリーサポート
事業

「新宿区からの委託事業の一つ「ファミリーサポート事業」は、子育ての「援助を受けたい方」と「援助したい方」に会員登録していただき、地域の中での活

「動の橋渡しをしています。実際に活動している提供会員さんから、お話を伺いました。」

「奥様の一言がきっかけで、新宿社協のファミリー・サポート・センターに向いた錦織さん。活動を始めてから6年になるそうです。」

「きっかけを教えてください。」
「元々子どもの世話はあまり得意な方ではなかったのです。正直、最初は人の為というより、定年後少々時間を持て余していた時に、妻から『昔と違ってみんな共働き。育児をちょっと手伝ってほしい人が近所に沢山いるから、手を貸してあげれば?』と言われたのがきっかけでした。」
「直ぐにご近所にお声を掛けたいのですか？」
「いいえ。人様の子どもを簡単

「に預かったり、世話をしたりなんてそう簡単な事ではないし、事故についても考えなくては行けない。そう思い社協さんに相談に相談して。」

「活動されていますか？」
「この活動は、有償ボランティアという位置づけです。利用会員から謝礼をいただいているので、気持ちのうえではちょっとやりにくい面もあります。ただ、提供会員になるには講習会受講が必要ですし、活動をするうえで、ファミリー・サポート・センター補償保険に加入しており、そのうえ公の制度として社協さんが仲介してくれるので自身、安心して活動できます。利用者の方も安心して子どもを預けられるのが良いと思います。」

「この活動でいいことは、近所での活動なので、以前、私が『じいちゃん』と呼ばれながら学校の送迎をした子どもが大きくなっている姿を見ることが出来るのです。感激しますね。」

子育て支援も「お互いさま精神」で



ファミリーサポート提供会員として活動している錦織さん。

「この活動でいいことは、近所での活動なので、以前、私が『じいちゃん』と呼ばれながら学校の送迎をした子どもが大きくなっている姿を見ることが出来るのです。感激しますね。」



07

成年後見制度
利用推進事業



民生委員の方のお話熱心に耳を傾ける後見人の方々。

成年後見人同士の ネットワークを作ろう！

催されました。

この日集まったのは、弁護士・

司法書士・社会福祉士といった「専門職後見人」、親族が後見人となる「親族後見人」、そして成年後見人として制度を学んだ一般の方が担う「市民後見人」など、区内で活動している成年後見人の方々など約30人。

普段、成年後見人は個々で活動しており、なかなか横の繋がりが作れないため、このような同じ心情や悩みを語り合える場はとても貴重です。

前半のイベントに続き さまざまな情報交換が

「後見人等が知り合うカフェ」は前半・後半の二部構成で行なわれる。地域の民生委員の方のお話からスタートしました。

後見制度を利用する方は地域からの支援が欠かせず、その筆頭たる民生委員の方から日

頃の活動などについてお話しいただきました。

そして後半は成年後見人同士の交流会。約8人ずつに分かれた班でひとつのテーブルを囲み、お茶やお菓子を手に語り合います。班には民生委員の方と社協の職員も参加。和やかに話を進めながら、参加者一人ひとりのお話を聞いていきます。

「後見人にはいろいろな権限があるけど、どこまで踏み込んでいいのか分からないんです。」と、ある親族後見人からの相談がある。専門職の方が「私の場合はこんなアドバイスをしています。ぜひプロの協力を仰いでください」と助言。金融機関の手続きのやり方など、様々な情報交換も行われました。

おしゃべりで気が楽に そして新しい出会いも！

会が終わわり、今回初めて参加

した親族後見人の方は「弁護士や司法書士の方など、いろいろな視点の意見が聞けました。私は法律に詳しくないので、こういう場はとても勉強になり、ありがたいです。」とほっとした様子。

その他にも、専門職の方の「私自身、もつと後見制度のことを学びたくて今日初めて参加しました。今後の活動にとっても役立つお話が聞けました。」「親族後見人の方の「簡単に解決できることばかりではありませんが、同じ仲間同士でおしゃべりをするだけで気が楽になれた気がします。」「市民後見人の方の「自己紹介で思いがけずご近所さんとも知り合えました。今後活動する上でとても心強いです。」といった声が聞かれました。

そして社協職員も今後の開催に意欲的です。

「『知り合うカフェ』は毎回ご好評をいただいています。専門職後見人、親族後見人、市民後見人など、それぞれの立場や垣根を超えて、ネットワークを作れるのは社協の強み。ぜひ多くの成



08

ボランティア・
地域活動サポート
コーナー

さを活かした活動を見つけることが出来ます。

ボランティア 活動の拠点



コーナーは、ボランティアの活動拠点としても利用されています。

四谷コーナーでは取材当日、

「四谷布遊(ふゆ)の会」の活動が行われていました。端布を集めて、様々な小物やぬいぐるみなどに仕上げ、作品をバザーで販売。収益は福祉団体へ寄付しています。

「四谷布遊の会」は、13年以上続いている老舗のボランティアグループです。集まったボランティアさんたちは、先輩のアドバイスを聞きながら作品作りに没頭しています。

「私達の作るものは、品質には自信があるの。年に2回の地域のイベントのバザーでは、楽しみに待っている方もいて嬉しいわね(笑)。」と見せていただいたポーチや巾着などは、なるほどデザイン的にも格好良く、とて

年後見人等の方々に参加してもらい、明日からの後見人活動のエネルギーにしていただけたらと思います。」

「成年後見制度」とは?

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」。だれもが地域で安心して暮らしていけるように定められた、民法に基づく制度です。認知症、知的障害、精神障害など、成年後見制度を受ける人のことを「被後見人」といい、弁護士・司法書士・社会福祉士や親族、市民などの「成年後見人」が、被後見人のために、金銭管理や福祉サービスの契約などを公的に支援します。



ひと針ひと針に心を込めて。

も寄附された布で作っていると、は思えないものばかりでした。「何かの役に立てばと思っただけで参加しましたが、今では活動が生活の張りになっていて、とても楽しいですよ。」

「私達がこつこつと楽しみながら時間を過ごせて、しかも誰かの役に立っている事は素晴らしいと思えます。」

職員は、「これからも、ボランティアさんと一緒に悩み、考え、行動して、住民の方の活躍の機会が広がるような『場作り』を地道に行なっていきます。」とお話しされました。

針仕事を楽しんでいるボランティアさんに笑顔があふれました。



「楽しんで、人様の役に立っているって本当に嬉しいわね!」と、四谷布遊の会の皆さん。

ご近所の「困った」と 「力になりたい」をつなぐ 福祉プラットホーム

身近な 情報相談窓口



新宿区内には5つのボランティア・地域活動サポートコーナーがあります。それぞれの窓口には、支援を必要としている方と何かの役に立ちたい方が、それぞれ気軽に立ち寄る事ができるオープンスペースになっています。

社協の担当職員が常駐して、毎日様々な相談に対応しています。

身近なお困り事を抱えていらっしゃる方には、ご近所のボランティアやグループのご紹介、また解決のための制度等をご案内します。

また、コーナーには様々なボランティアグループや社会貢献活動の情報があり、職員に説明を聞く事ができるので、自分らし

経営計画策定委員会

平成17年に策定された、第二次経営計画(2006～2008年)で、「だれもが安心して暮らせる新宿型福祉コミュニティ」の実現を目標に掲げ、その後を引き継いだ第二次(2009～2013年)の計画では、目標実現のため「小地域ごと」の活動計画を立て事業を進めてきました。

そして、60周年という節目に策定される第三次経営計画は、来年度から5年間の新宿社協の活動の大きな羅針盤になります。

4月25日に行われた第一回目の会議で、各分野から集まって頂いた策定委員の方々による話し合いが始まりました。

第三次経営計画策定委員会



立教大学
コミュニティ福祉学部 教授
森本 佳樹 委員長

専門分野である地域福祉と、他社協、行政等多くの計画に関わってきた経験を生かした事業計画作りのお手伝いをしたいと思います。



新宿区民生委員・
児童委員協議会 会長
新宿区社会福祉協議会 副会長
貫名 通生 副委員長

戦後、バラックから自分の家を作って来た時に、人は心にも塀を作ってしまった気がします。今こそ、心の塀を超えた関係を作り、地域を再生していくべきと考えます。



民生委員・児童委員協議会 副会長
ボランティアグループ、オンリー・ワン
鱒沢 信子 委員

役割を持って地域へ関わる事が大切だと思います。社協は、担当が住民との思いを共有して地域の力をサポートするべきで、またそれが出来ると信じています。



新宿区町会連合会 副会長
前田 昇 委員

町会連合会から参加しています。区行政と連携して活動している私達の声が、社協さんの事業計画のお役にたてればと思っています。



特定非営利活動法人ハミツ 理事
伊藤 清和 委員

民間企業の事業プランにも関わっていた経験を生かし、住民から見て分かりやすく、参画意識の持てる計画作りに協力したいと思っています。



新宿区障害者福祉協会 常務理事
矢沢 正春 委員

誰のための事業計画なのかを基本に、関係者だけが理解できる計画ではなく、一般の住民の方に期待を持ってもらえるようなものを作らざるべきと考えます。



スープの会 世話人
後藤 浩二 委員

委員にホームレス分野の私を起用した事は、新宿社協さんの独自性とこの計画策定に対する意気込みを感じます。リアルな現実を踏まえ、ご期待に応えたいと思います。



新宿区福祉部 地域福祉課長
赤堀 充男 委員

地域福祉の課題も変化してきました。現場に密着した社協のコーディネート機能には、大きく期待すると同時に、行政との連携を強化していきたいです。



新宿区地域文化部 地域調整課長
山田 秀之 委員

町会、NPO、社協のCSR活動を通じて、問題解決の為に、地域の潜在能力を引き出していく社協の力に大いに期待しています。



新宿区社会福祉協議会 事務局長
伊藤 陽子 委員

新宿社協の責任者として、それぞれの専門家の方々にお集まりいただきお知恵を拝借しながら、社協の専門性と存在感を広くPRできる事業計画を策定していきたいです。

首都大学東京 都市環境学部 准教授
長野 基 委員

榎町高齢者総合相談センター 管理者
後藤 八重子 委員

小田急電鉄株式会社 経営企画部 課長
山本 武史 委員

神楽坂あそびの社 代表
本多 香奈子 委員

新宿区社会福祉士会 事務局長
長谷川 洋昭 委員

第二部 「あゆみ」



創生期

昭和28年
▼
昭和46年

経済白書で「もはや戦後ではない」と宣言するまでに復興したこの時期、社会福祉の状況はGHQの「社会福祉の6項目提案」に始まり、福祉は無差別平等の原則・国家責任による生活保障の原則等が明確化され、民間社会福祉が促進し「国民たすけあい運動」として共同募金が全国一斉に始まった。



赤い羽根共同募金運動



戦後間もない昭和22年に、民間福祉施設・福祉団体や戦禍にみまわれ生活困難な人々への支援を目的とした全国的な募金運動はこの頃にすでに始まっていた。(昭和22年～)

新宿区社会福祉協議会発足

歳末たすけあい運動の前身は東京都社会福祉協議会が提唱した、「一品持ち寄り運動」が始まりで、「一人の不幸はみんなの不幸」「みんなで明るい正月を」と生活支援を目的に開始された。(昭和26年～)



設立に係わる資料等は事務所移転時に散逸し、残念ながら残っていない。ただ法人申請資料によると、新宿区原町三丁目8番の社会福祉法人思賜財団東京都同胞援護会が所有する建物の二階一室をある期間、活動の拠点としていたと思われる。また東京都社会福祉協議会30年史によると、任意団体設立の形式には、地域民生委員を母体として組織化したものなど3つに類型あり、新宿社協は、法人設立時の資料から推測すると、行政からの財政援助が法人認可後になって初めて行われたことから地域民生委員協議会を中心とした、区、福祉事務所等行政の支援により発足したものである。(昭和28年6月25日)



社会福祉法人新宿区社会福祉協議会設立

任意団体としてスタートしてから10年目に「社会福祉法人新宿区社会福祉協議会」が誕生。法人化にあたっては、都の指導に基づき、専任の事務局長・職員の配置、地域における福祉団体の代表者の参加など3つの条件を備えたものであった。(昭和37年6月22日)

なたきり老人の実態調査

東京都社会福祉協議会が企画、地域社協と民生委員協議会の共催事業として実施。地域福祉活動の前提となる。福祉対象者の実態を調査したもので、成果として調査活動が世論形成に影響を与え、今日的な福祉問題が提起できたことである。(昭和42・43年)

基盤形成期

昭和47年
▼
昭和56年

この時期、高度経済成長がもたらした戦後最大の貿易収支赤字と貿易の不均衡に対して、アメリカのドル防衛策がとられ高度経済成長が一挙に低成長に転落。経済の低迷期に入り、福祉の見直し論が活発化し、それに合わせ社協を中心に地域福祉に関する研究や普及活動が推進された時代であった。

ひとり暮らし老人家庭訪問相談事業

新宿区の委託を受けて実施され、70歳以上のひとり暮らし老人の家庭を訪問。相談相手や心配ごとの解決援助を行う事業として始まり、現行のふれあい訪問事業の前身事業となる。(昭和47年～平成11年)



社協だより「けやき」の創刊

6月1日「けやき」第1号が創刊された。特集記事として「体の不自由な老人の生活状況調査」の中間報告が掲載される。「けやき」は昭和55年までは年2回、昭和56年から平成6年までは年3回と徐々に強化されている。(昭和50年～)



ボランティア・コーナー設置

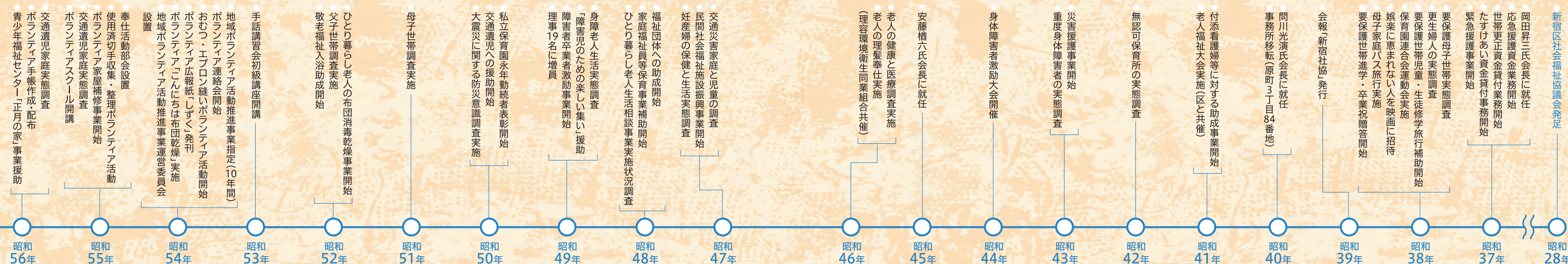
コーナーの設置は昭和52年国と都の補助事業である「地区ボランティア活動推進事業(推進モデル地区)」に先立つもので、昭和54年から10年間の推進モデル地区の指定につながり、その後、社協ボランティア活動の中核拠点と発展する。(昭和52年～)



福祉モニター制度



新宿区内の福祉サービスについて意見を提言する「福祉モニター」から、毎年多数の要望が寄せられ社協活動の評価の目安となった。また、福祉モニターによる区内福祉施設の見学会なども行われた。(昭和56年～平成2年)



組織基盤を整備・強化したこの時期、昭和49年には理事を17名から19名に増員。昭和50年6月には、新宿社協の機関紙である「けやき」を創刊し、昭和54年には、ボランティア広報紙である「しずく」の創刊と合わせ、啓発・周知活動の基礎を作った。事業では、ボランティア活動の先駆けとなる、早稲田大学ホームサービスグループを全面的に支援するなどボランティア活動支援に本格的に取り組み始めた。また57年から「リサイクル・バザー」と改名され平成元年まで続く「不用品即売会」が開催され、社協の貴重な一般財源となる。

国民参加による民間社会福祉の促進という時代の要請により、昭和28年6月25日に新宿区社会福祉協議会は任意団体としてスタートした。さらに時は過ぎ、昭和37年6月に都内で最初の法人認可された「社会福祉法人新宿区社会福祉協議会」が誕生。当時の会報「新宿社協」には「新宿社協は新宿区を明るい町にするために、区内各界の人々で組織され、区民全員参加を旗印にした「たすけあいの会」である。」とある。新宿区を住みよい町にする「地域福祉の推進」を目指したものであった。

基盤強化期

昭和57年
↓
平成3年

昭和60年頃から円高が進行し超低金利を反映して証券市場が活況を呈し、国内経済は「バブル期」に突入した。一方福祉を取り巻く状況は、昭和57年老人保健法公布、昭和58年社会福祉事業法の一部改正、平成元年には「高齢者保健福祉推進10か年戦略（ゴールドプラン）」など目まぐるしい変革の時期を迎えた。

社協法制化運動



(昭和57年)

障害者のための講座の実施

障害者対象の講座を実施。視覚障害者を対象に編み物教室などハンディを乗り越え挑戦した講習は参加者に大好評であった。これらの講座は昭和60年に開所した区立障害者福祉センターに引き継がれた。(昭和58・59年)



区内精神障害者共同作業所レクリエーション事業



(平成3年～平成10年)

車椅子貸出事業

昭和52年に5台の車椅子のご寄付を受け福祉事務所で貸出に活用していたが、昭和59年「加藤まち福祉基金」からの資金を活用し区民への貸出を開始。その後も台数は増え平成5年からは地区ボランティアコーナーでも本格的な貸出事業となった。(昭和58年～)



(昭和58年～平成14年)

重度視覚障害者ガイドヘルパー派遣事業

区の委託を受けて、重度視覚障害者の方が官公庁や病院等へ外出する場合ガイドヘルパーを派遣。昭和58年度開始から平成15年4月の支援費制度導入まで事業を推進した。(昭和58年～平成14年)

当時、区内には民間の共同作業所が4所開所していたが、各作業所の連携を図りたいとの要望を受け平成3年10月作業所の交流を図るためのバスハイクを実施。8年間にわたり通所者の自主性を育て相互の交流を図った。その後新宿区精神保健ネットワーク連絡会が交流行事を引き継ぐ。

地域福祉展開期

平成4年
↓
平成14年

顕著になった少子化社会の進行による社会構造の変容、バブル経済の崩壊、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件など激動の時代において、社会福祉方面でも、平成12年4月から施行された介護保険法、平成9年11月から始まった「社会福祉基礎構造改革」の議論など目まぐるしい変動の時期となった。

社協創立30周年記念式典

新宿区文化センター大ホールで「新宿区社会福祉協議会30周年記念のつどい」を開催。法人化30年の節目に地域福祉に功労のあった方々に感謝の意を表するとともに、社協への理解を深める目的で行われた。(平成4年10月9日)

ファミリーサポートセンターの設置

区より委託を受け地域で子育ての援助を受けたい人と、子育ての支援を行いたい人を会員として、相互援助を行う有償の支援活動である。共働きの多い新宿区では、急激に規模が拡大している事業である。平成23年度から、病児・病後児預かりを開始する。(平成12年～)

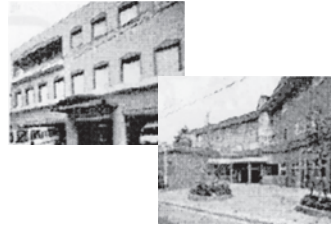


「新宿ボランティア市民活動の日」宣言



高齢者在宅サービスセンター開設

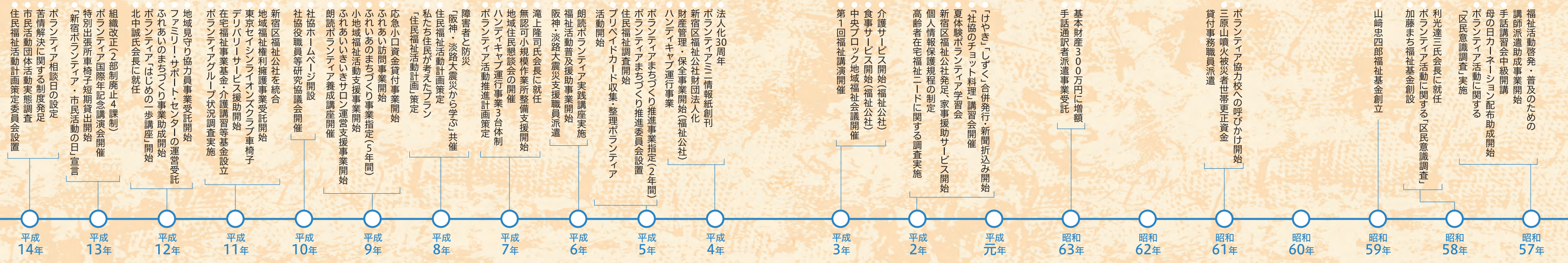
平成3年11月、新宿区内で初めての高齢者在宅サービスセンターの開設準備事務を区より受託。平成4年6月、若葉高齢者在宅サービスセンターを開設するなど社協として初めて施設運営を行った。(平成4年～6年)



阪神・淡路大地震支援のための社協職員派遣

1月17日に発生した阪神・淡路大震災。この災害をきっかけにボランティア活動が盛んになり、応援する市民の力が高い評価を受けることになる。全国の各社協は、合同対策本部を設置し、新宿社協も2・3・4月それぞれ1名の職員を派遣した。(平成7年2月～4月)

「ボランティア国際年」を記念して「ボランティアふれあいまつり」を実施。国連ボランティア名誉大使・中田武仁氏の講演会を開催し、大使立会いのもと「ボランティアは、まちづくり・地域づくりの主役です。人と人とのつながりを大切にします。」など5つの宣言が採択された。(平成13年9月)



新宿社協は、社協の本来の目的である地域福祉事業を展開、発展させた時代といえる。平成5年3月に地域福祉活動計画策定委員会を設置し、平成8年12月「住民福祉活動計画」を策定した。また、平成5年4月には、国の補助事業である「ボランティアのまちづくり推進事業」の指定を受け、昭和52年設置のボランティアコーナーをボランティアセンターに改組。平成8年5月には、地域福祉活動計画に先駆け「ボランティア活動推進計画」を策定し、新宿社協の計画的な事業推進の二本柱とした。

昭和58年には「加藤まち福祉基金」、翌59年には「山崎忠四郎福祉基金」を創設するなど、社協の財政的基盤が強化された。基本財産も設立当初から電信電話債券の62万円であったものを、定款の変更にあわせ、300万円に増額し現在に至っている。また全社協が昭和61年に「社会福祉改革の基本構想」を発表。在宅福祉の推進、福祉供給システムの再編・総合化の促進を強調した。この時期、第三代会長安藤檜六氏の後任として第四代会長に小田急電鉄株式会社社長の利光達三氏が就任。平成11年に統合した(財)新宿区福祉公社が、現在の「暮らしのサポート」事業の前進となる家事援助サービスを開始。住民相互援助活動が地域に広まった。

地域活動展開期

平成15年
▼
平成24年

平成15年、米英によるイラク侵攻作戦開始、平成20年リーマン・ブラザーズ経営破綻による世界同時不況、翌年度には衆議院選挙で民主党が歴史的勝利をおさめた。平成23年に発生した東日本大震災では改めて日頃の近所つきあいの大切さが見直される契機となった。新宿社協では、平成17年に初めて「社協経営計画2006〜2008」が策定され、「だれもが安心して暮らせる新宿型福祉コミュニティ」の実現が目標に掲げられた。

シンボルマーク作成



社協創立50周年を機にシンボルマークを作成。
新宿区と社協の共通の頭文字である'S'をこれから発展する地域福祉の道として表現し、その上を地域福祉の担い手である区民が歩いている様子を表現。道はだんだん太く、歩く人々も増えていくイメージ。

高年齢者就業支援事業開始 「新宿わく☆ワーク」開設



平成15年に開設され、高年齢者の求職者及び求人事業所を支援してきたが、平成23年度から公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センターへ移管となった。
(平成15年～平成23年3月)

ふれあい・いきいきサロン推進事業



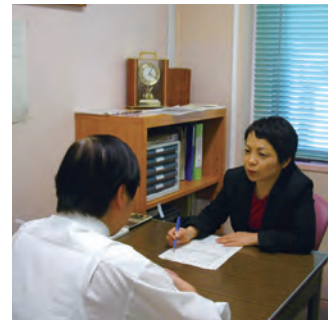
写真は平成20年から活動が始まったつるまき学校サロン。学校と地域住民が連携して居場所づくりを行ってきました。子どもから高齢者まで、顔をあわせて交流することで、新たな地域のつながりが生まれる「ふれあい・いきいきサロン活動」は区内各地区で取り組まれている。
(平成16年～)

「住民福祉活動計画2004」策定



誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざし、住民主体の地域福祉活動の方向性と取り組みをまとめた住民の行動計画。その計画の中で、社協強化プランの策定を提言され、社協経営計画の策定につながった。
(平成15年)

成年後見制度推進機関 「新宿区成年後見センター」の開設



新宿区から「成年後見制度推進機関」の運営を受託し、「新宿区成年後見センター」が開設された。
(平成19年～)

新宿区役所第二分庁舎へ事務所移転



平成16年3月に新宿区役所第二分庁舎2階へ事務所移転。約3年後の平成19年5月に以前事務所のあった高田馬場へ再移転。1階に戸塚特別出張所、社協は1階と2階にわかれての事務所配置となった。
(平成16年3月～平成19年5月)

「社協経営計画2006」 2008(第一次)「策定」



平成12年に区からの委託事業として開始したひとり暮らし高齢者への見守り・声かけ活動。区発行の「ぬくもりだより」もお届けしています。各地区の見守り協力員と高齢者が地域の中で温かな関係を築いている。
(平成12年～)

地域見守り協力員事業

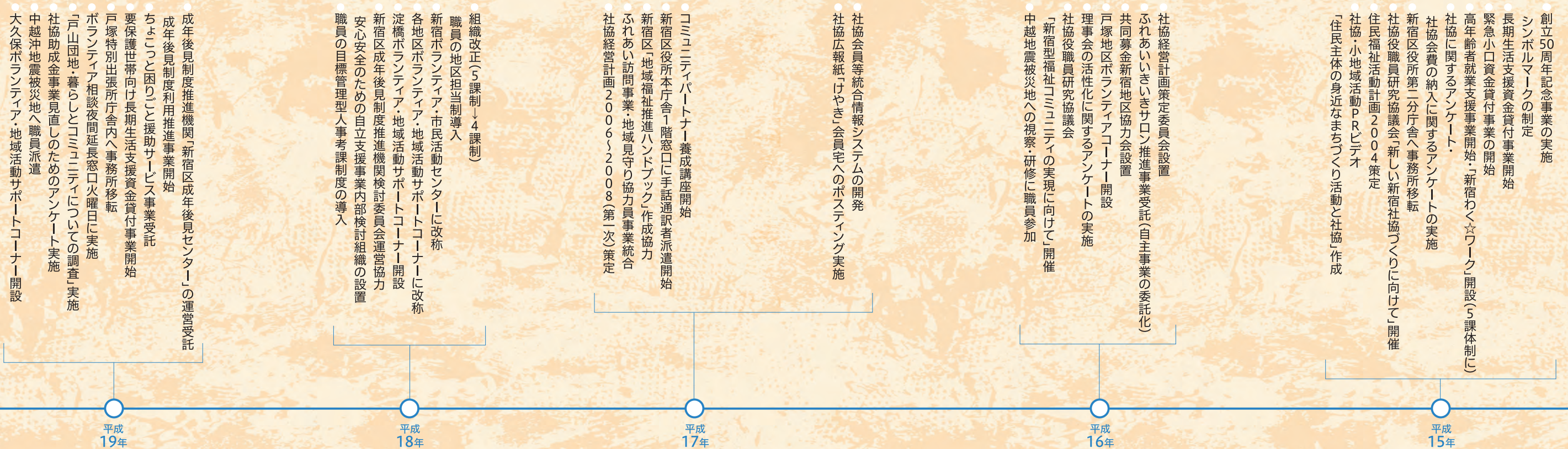


新宿社協の理念・目標が明確化され、実行の手法として事業・組織の小地域展開が打ち出される。その後、平成21年「社協経営計画2009～2013(第二次)」の策定、平成23年に中間の見直しを行い、第三次経営計画策定中の現在にいたる。
(平成17年)

ちよこつと困りごと 援助サービス事業受託



平成19年に区からの受託事業として開始。電球交換等の作業や重い物の移動等、高齢者の日常生活でのちょっとした困りごとを、地域のボランティアが解決している。
(平成19年～)



暮らしのサポート事業



「在宅福祉サービス事業」をリニューアルし、「暮らしのサポート事業」として平成21年より開始。地域で暮らす誰もがその人らしく生活が送れるよう、住民相互の支えあい活動をコーディネートし支援している。(平成21年～)

生活福祉資金制度改正



総合支援資金・臨時特例つなぎ資金貸付事業の開始。貸付要件の緩和など、生活福祉資金制度の根本的な制度改正を実施。(平成21年～)

成年後見制度普及イベント実施



成年後見制度について広く、わかりやすく周知するため、吉本興業や弁護士の協力を得て、普及イベントを行った。(平成23年11月)

赤い羽根共同募金と歳末・地域たすけあい運動街頭募金を実施



新宿区内の各地域で町会・自治会や民生委員・児童委員のさまざまな方にご協力いただき街頭募金を実施した。(平成22年～)

百人町さんさん夏祭り



東日本大震災の被災者支援で活躍中の大学生が地域住民と協力して夏祭りを開催。この活動は記念誌の現場レポートにある「さんさん冬祭り」へとつながっている。(平成24年)

地域コーディネーター養成講座



平成23年から開講した「地域コーディネーター養成講座」では、地域活動に必要なコーディネートスキルと実践力を学びます。修了生は頼れる「まちの世話やきさん」として、地域の調整役を担っている。(平成23年～)

社協事務所移転



平成23年6月～平成24年1月まで庁舎改修に伴い事務所移転。平成24年1月に高田馬場事務所に戻り、現在に至る。

新宿区視覚・聴覚障害者交流コーナー開設



5月7日に、視覚・聴覚障害者の方々が、相談・助言・情報提供や利用者同士及び地域住民との交流ができるコーナーとしてオープンしました。当事者同士や地域住民との交流、社会参加、当事者団体の活動をサポートしている。(平成24年～)

「新宿社協 会員のつどい」を開催
～頼れるご近所さんを地域に増やそう!～
6月29日に、新宿社協の会員および地域で活動されている皆さん204名が参加して「会員のつどい」を開催。1部では社協の活動報告、2部では琉球國祭り太鼓をご覧いただき、楽しいひと時を過ごした。(平成24年)

- 安心安全のための自立支援事業検討委員会の設置
- 助成金事業のあり方検討委員会の設置
- 災害ボランティアセンター運営マニュアルの作成
- 首都圏統一帰宅困難者対応訓練への参加
- 社協経営計画2009～2013(第二次)策定
- 在宅福祉サービス事業終了

- 暮らしのサポート事業開始
- 社協地区パートナー組織運営事業の開始
- 地域活動支援課地区担当グループ制開始
- 介護支援ボランティア・ポイント事業受託
- ボランティア情報等携帯電話配信システムの開始
- 町会・自治会へのアンケート実施
- 事業評価プログラムの検討
- 生活福祉資金制度改正
- 総合支援資金・臨時特例つなぎ資金貸付事業の開始
- 障害関係施設・団体等(脳高脳機能障害)へのヒアリング調査実施
- 新聞折り込みの広報紙を「げやき」、月刊のボランティア・市民活動情報紙を「しずく」に整理
- 戸塚特別出張所転出にともなう事務所の庁内移設
- 経営計画に基づく事業評価のまとめ作成

- 組織改正(在宅生活支援課を地域活動支援課に統合し、成年後見センターを課の扱いとした。)
- 社会貢献型後見人(市民後見人)受任・法人監督人受任
- 成年後見制度・権利擁護推進基金創設
- 成年後見制度普及イベント開催
- 地域ささえあい活動助成事業開始
- (株)日本財託による施設設備整備助成事業開始
- 毎週土曜日にボランティア相談窓口開設
- 各種機材貸出業務委託開始
- めくもりだより訪問配布事業受託

- 暮らしのサポート事業PRビデオ「とも」に支え、ともにつくるまちづくり作成
- 暮らしのサポート事業普及シンポジウム開催
- 社協会員アンケートの実施
- 東社協・中央ブロック社協共催地域福祉フォーラム「これからの集合住宅とコミュニティを描く」開催
- 街頭募金の実施
- 緊急小口資金(特例貸付)貸付事業開始
- 外部評価の実施
- 高齢者就業支援事業を新宿区勤労者・仕事支援センターへ移管

- 東日本大震災被災地へ職員派遣
- 区内避難者への支援開始(東京都孤立化防止事業開始)
- 受験生チャレンジ支援貸付事業受託
- 生活復興支援資金貸付事業開始
- 社協広報紙「げやき」年6回発行へ
- 庁舎改修にともなう事務所一時移転(6月下旬～1月上旬)
- 介護支援ボランティア・ポイント事業18歳以上へ対象拡大
- ファミリーサポート事業病児・病後児預かり開始
- 地域コーディネーター養成講座(第一期)開始
- 社協会員のつどいを特別出張所管轄地区ごとに開催
- 親族後見人・市民後見人交流会及び交流カフェ開催
- 親族後見人の状況及びニーズ調査実施
- 社会貢献型後見人(市民後見人)受任者連絡会開催
- 地域福祉権利擁護事業利用料免除制度開始
- ITコンサルティングの実施
- 経営計画中間の見直しの実施

- 視覚・聴覚障害者支援事業受託
- 「視覚・聴覚障害者交流コーナー」開設
- 社協会員感謝のつどい開催
- 各地区民生・児童委員と社協職員との懇談会開催
- 会員等統合情報システムの開発・イントラネットの構築

平成24年

平成23年

平成22年

平成21年

平成20年

暮らしのサポート事業



日常生活で支援を必要としている方々が安心して暮らせるように、地域の皆さまのお力によってサポートします。

日常的な買い物や掃除、趣味の相手や散歩つきそいなど、住民同士の「ささえあい」で共感できることをお手伝いします。

年齢や障害の有無に関わらず、どなたでもご相談ください。

相談内容や状況によって、有償や無償のサポート活動など、様々なコーディネートを行っています。

ボランティア・市民活動 コーディネート事業



ボランティア活動をしたい方とボランティア活動を必要とする方の出会いのお手伝いから、様々なボランティア・市民活動団体への支援まで、新宿ボランティア・市民活動センターと各地区のボランティア・地域活動サポートコーナーでコーディネートしています。

ボランティア・市民活動のご相談や、具体的な活動支援、ボランティア・市民活動情報の発信、地域人材の育成など各種講座の企画、地域における福祉教育の推進などを行っています。

新宿社協の仕事2

地域での 様々な活動を ささえます



ふれあい福祉相談



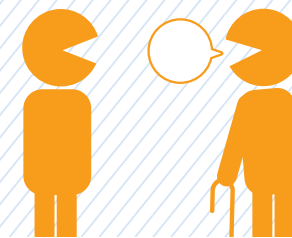
日常の様々な問題や、悩み事などのよろず相談を行っています。プライバシーは厳守致します。利用料は無料です。(相談後実務に入った場合の実費のご負担が必要な場合があります。)

【相談内容】

・司法書士相談・税務相談・介護相談・住宅改造相談・医療相談・心の悩み相談・子育て相談・青少年の相談・交通事故被害相談

新宿社協の仕事1

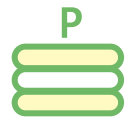
皆さまの ご相談に おこたえ します



新宿社協の仕事

新宿社協では、支援を必要とする方のご相談を伺い、また地域活動に参加する方をささえる様々な事業を行っています。

介護支援ボランティア・ ポイント事業



18歳以上の方が区内の高齢者の方を支援するために、地域の高齢者福祉施設や在宅の高齢者へボランティア活動をしています。

活動に応じて貯めた「ポイント」は、年間合計50ポイント(=5,000円)を上限に換金または寄附ができます。

ちょこっと困りごと 援助サービス



電球の交換など、日常生活のちょっとした困りごとのご相談を承ります。

地域のささえあい活動の一環として、地域のボランティアの方々と協力して困りごとの解決にあたります。

ふれあい訪問・ 地域見守り協力員事業



一人暮らしの高齢者の世帯が増え、健康や暮らし等についての不安が増大しています。こうした不安を解消し、住み慣れた地域で孤立することなく安心して暮らしていけるよう、地域の皆さんによるたすけあいの声かけ活動を支援しています。

情報紙「ぬくもりだより」の訪問配布も活動の一環として行っています。

地域福祉権利擁護事業 (日常生活の自立支援)



認知症の症状や物忘れ、知的障害や精神障害などにより判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活ができるよう支援する制度(社会福祉法)です。

本人との「契約」により、福祉サービスの利用援助を中心に、必要に応じて日常的な金銭管理サービス、書類等の預かりサービスを担当の生活支援員・専門員が援助します。

成年後見制度の相談



成年後見制度は、認知症、知的障害、精神障害等により、判断能力が十分でない人の権利を守る制度(民法)です。

成年後見人等がこれらの人の意志を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活をお手伝いします。センターでは、成年後見の相談窓口を開設しています。

また実際に後見活動に携わる専門家の協力により「成年後見専門相談」を実施しています。

貸付事業



低所得世帯や障害者世帯、高齢者世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的として、無利子または低金利で資金の貸付と必要な相談支援を行っています。

【貸付の種類】

生活福祉資金・総合支援資金・緊急小口資金・不動産担保型生活資金・応急小口資金・受験生チャレンジ支援貸付資金

新宿社協の事業は、
「赤い羽根共同募金運動」、「歳末・地域たすけあい運動」による募金配分金と
会員の皆さまからいただく会費や寄附金を重要な財源として実施しています。

ふれあい・いきいきサロンの支援



ふれあい・いきいきサロンは、だれもが気軽に参加できる地域の「いこいの場」です。

地域に住む住民同士の世代を超えた出会いの場、交流の場、仲間づくりの場であり、だれもが自由に参加できる「地域住民のための地域交流の場所」です。

区内では高齢者サロンや子育てサロン等、数多くのサロンが活動しており、新宿社協ではサロン活動の立ち上げや運営に関する相談などの支援を行っています。

地域ささえあい活動助成金事業



区民が自主的に参加し、共有する問題の解決に向けて取り組んでいる地域団体や、障害者団体などへの活動助成事業です。共同募金を原資としています。

ファミリーサポート事業



地域の中での子育て支援と児童福祉の向上のため、区民による会員制の相互援助活動です。

子育ての援助を必要とする方(利用会員)と子育ての援助を行いたい方(提供会員)の橋渡しをしています。

病児・病後児への育児支援も行っています。

新宿区視覚・聴覚障害者交流コーナー運営事業



当事者同士の交流、地域住民との交流や当事者団体の活動をサポートいたします。

代読・代筆サービス、インターネット情報検索、相談・助言・情報提供、講座・講習会の開催支援など、視覚・聴覚等に障害がある方を支援しその社会参加と地域交流を目指していきます。

地域イベント用機材の貸出



区内福祉施設・団体や地域活動、また地域行事を通じたまちづくりにも役立てていただくため、各種イベント機材の貸出を行っています。

貸出料は無料。あらかじめご予約ください。使用日より6ヶ月前から予約を受付けます。

【貸出できるもの】
着ぐるみ(とら・うさぎ)・綿菓子機・焼きいも機・プロジェクター・スクリーン・輪なげセット など

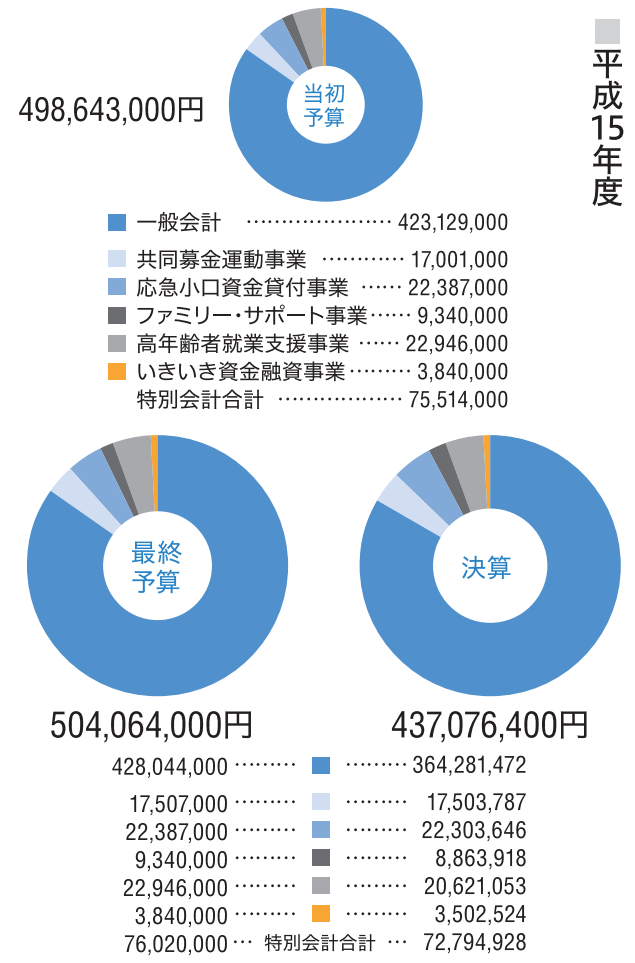
車椅子貸出事業



区民の方々からの寄附金で購入した、車椅子を無料で貸出しています。貸出はボランティア・市民活動センター(高田馬場)の他、各地区ボランティア・地域活動サポートコーナー(四谷、牛込、落合、大久保、淀橋)で行っています。

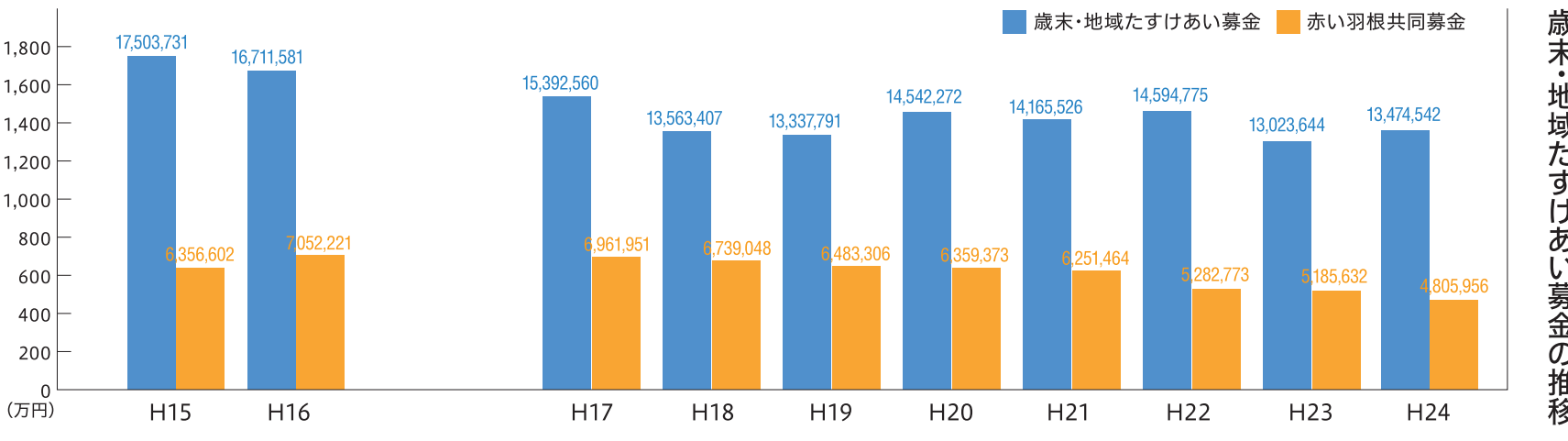
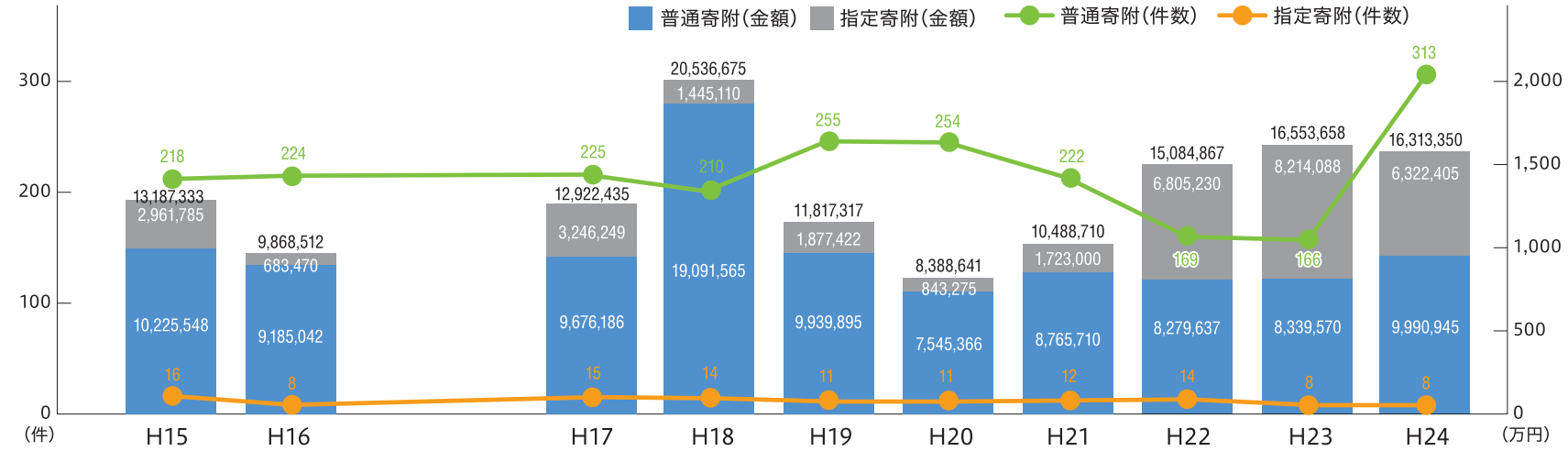
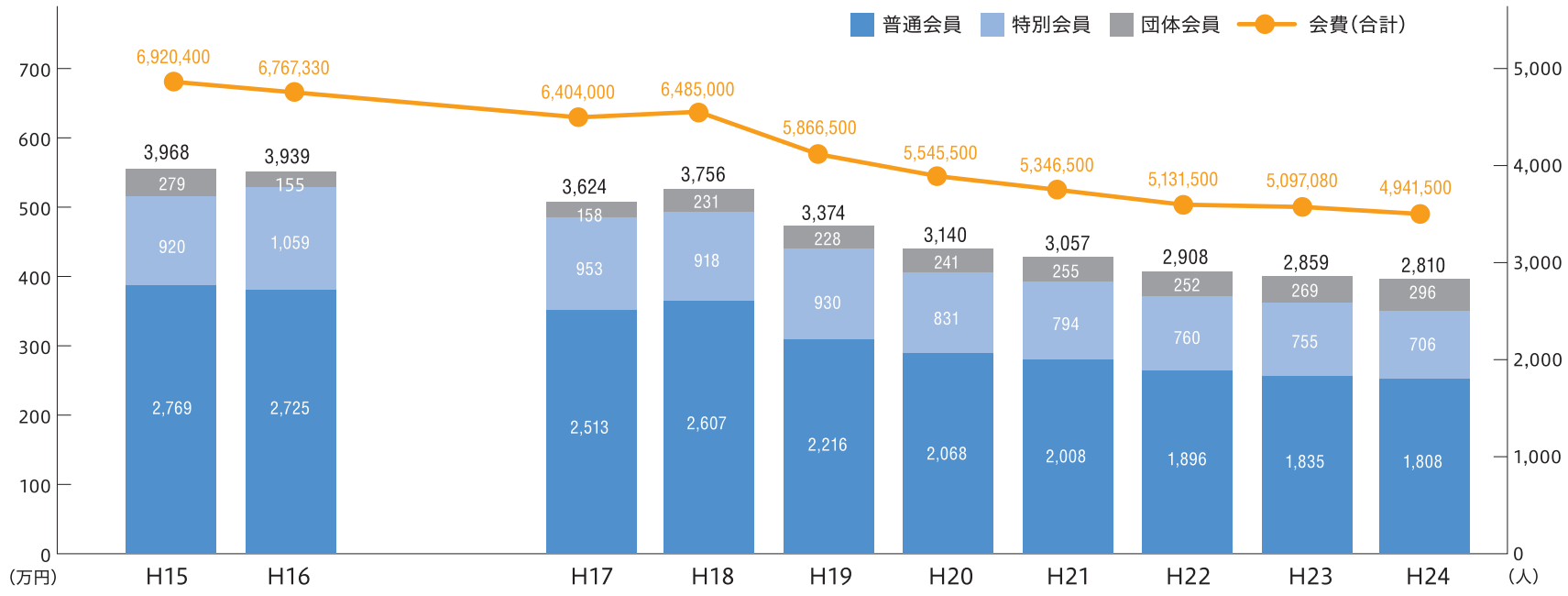
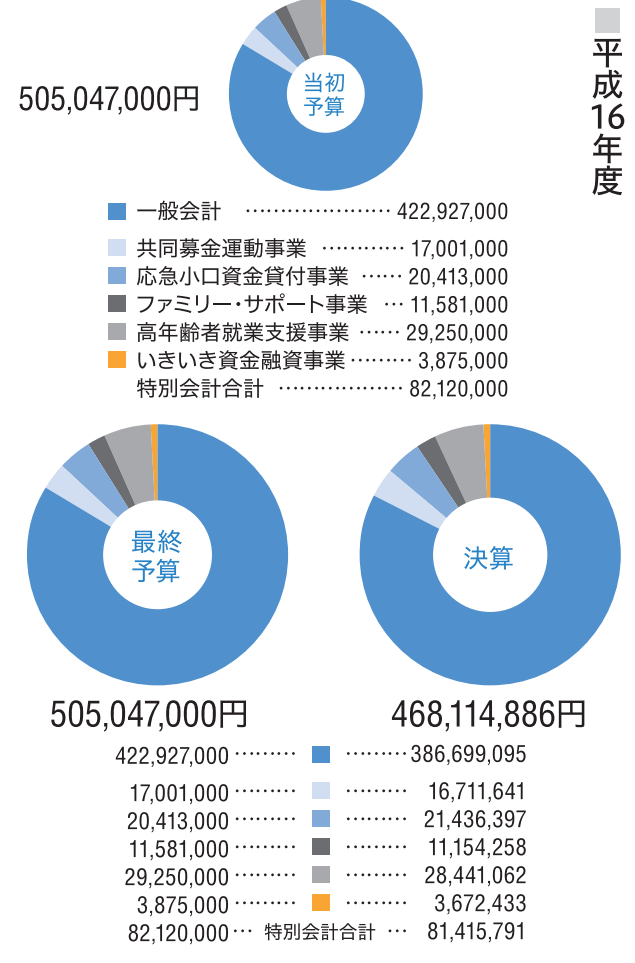
【対象】
高齢の方、障害のある方など何らかの事情で歩行困難な方。

ただし、実費購入できる方、他制度(介護保険によるレンタル、身体障害者手帳による給付等)の利用ができる方は原則として対象外となります。



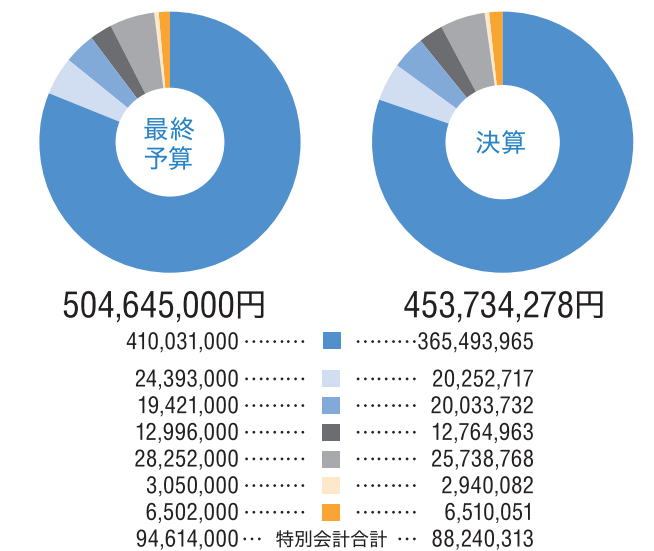
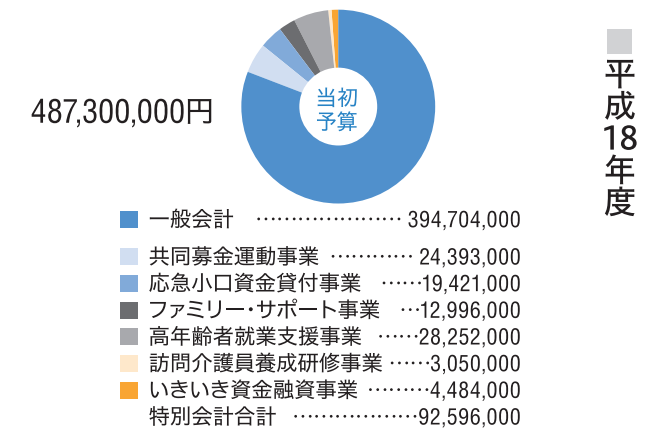
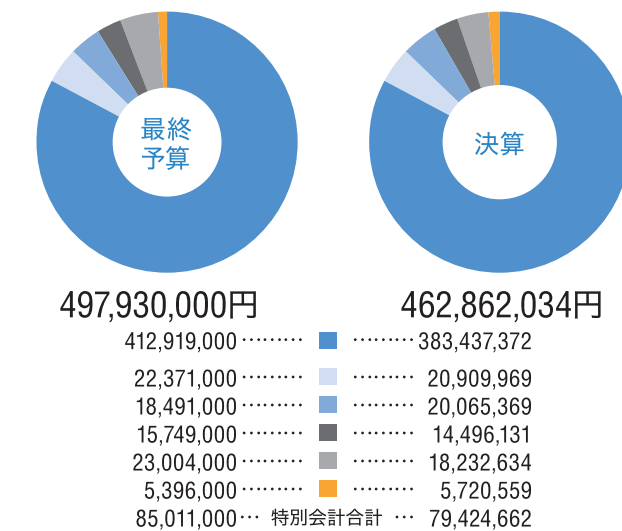
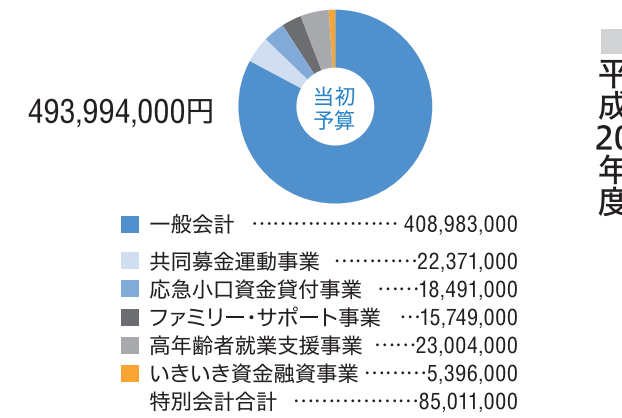
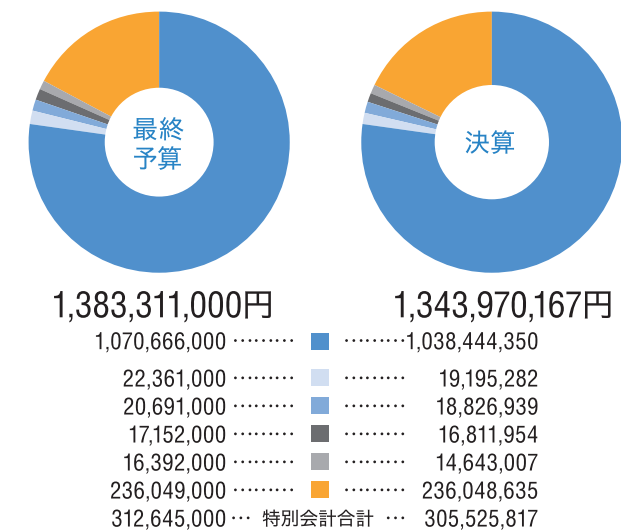
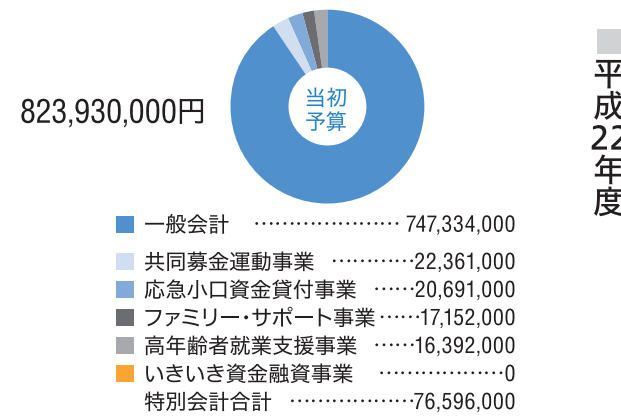
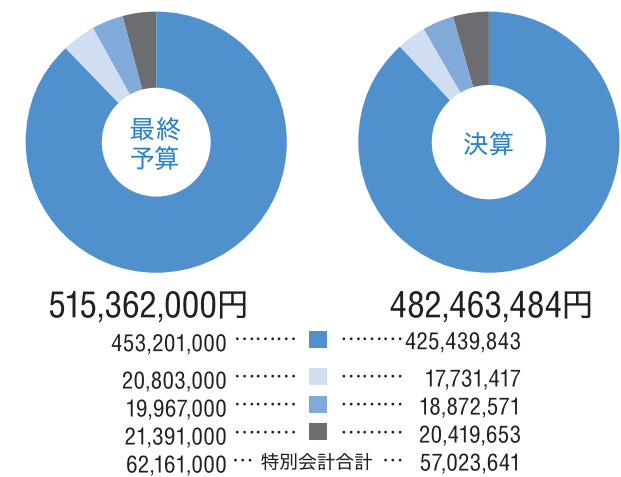
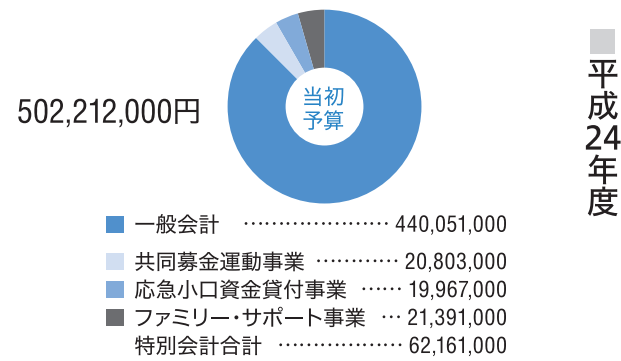
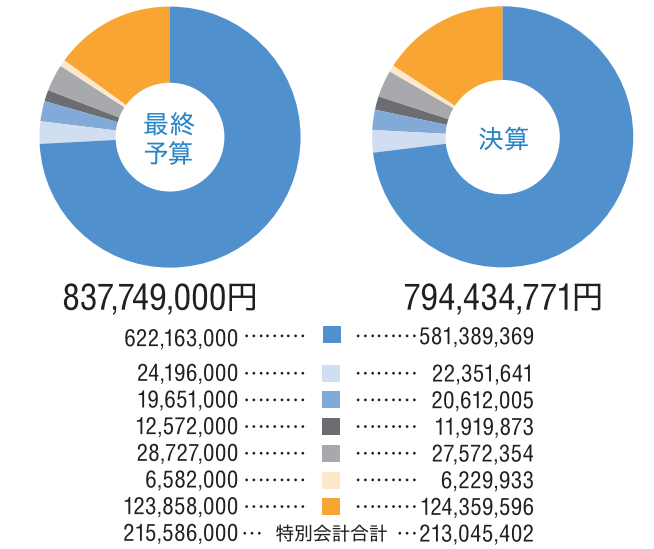
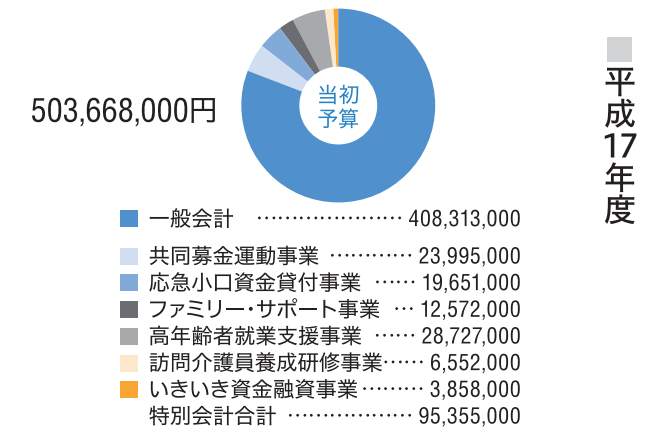
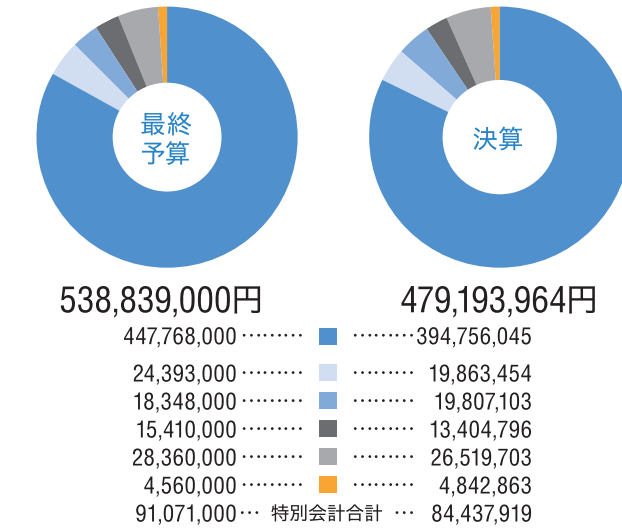
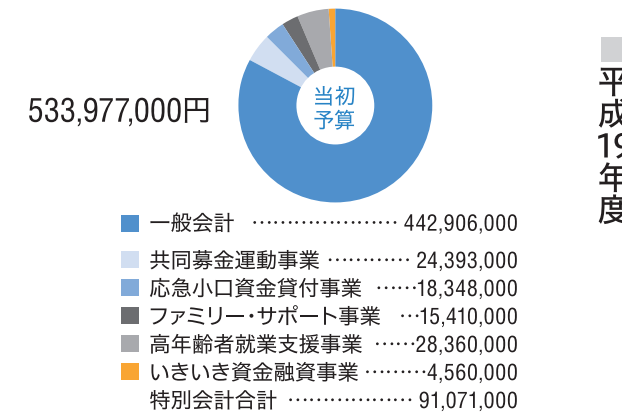
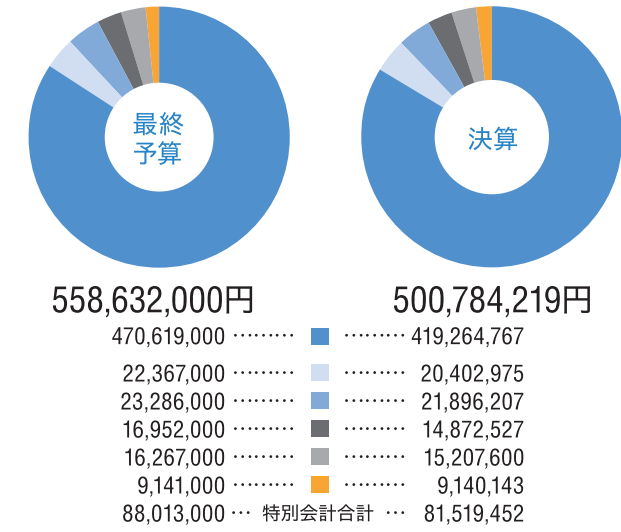
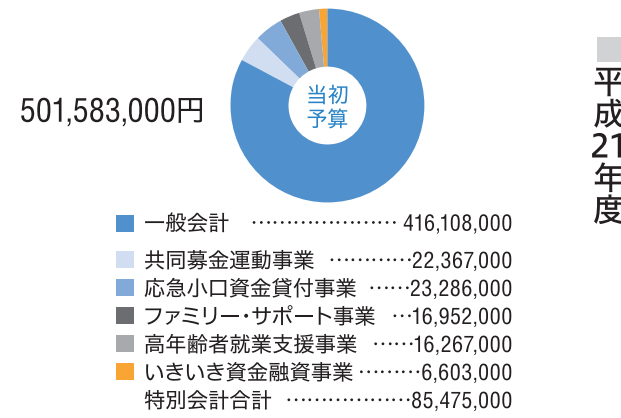
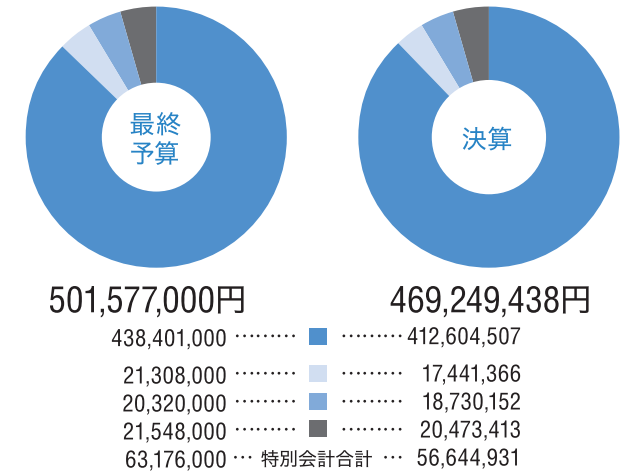
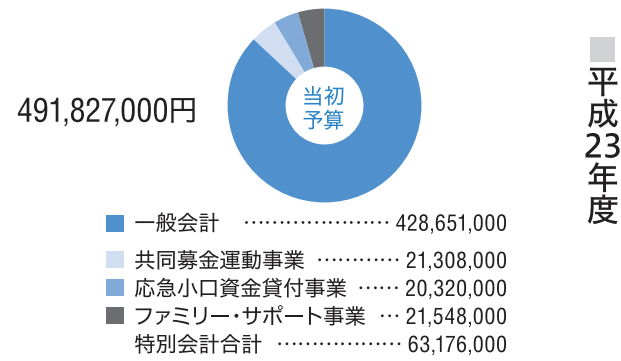
資料 2

一般会計・特別会計予算・決算



資料 1

会費・寄附金・募金等推移



理事・監事名簿

22期
H16.8.1
H18.7.31

理事

北中誠

会長

四谷 増田ふさ
牛込東部 小菅知三
牛込西部 古屋正義
淀橋西部 榎本武則
戸塚 菊地輝晃
落合 二上映子

町連

大崎秀夫
北原和佳
川俣一弥

保護司

磯崎松太郎
岡玲子

学識

佐野栄三郎

商工・商連

喜多崇介

町連

鈴木豊三郎
前田昇

保護司

植木智一郎

学識

六田文秀

商工・商連

喜多崇介

福祉施設

都留和光

福祉団体

西村美智代

常務理事

佐田俊彦
金子良江

監事

民児協

藤本龍美

町連

原田英明

会計士

田中義幸

25期
H22.8.1
H24.7.31

理事

福祉施設 鈴木祐子
福祉団体 西村美智代

常務理事

鷺見達也
長谷川智行

監事

横山佳明
藤本龍美

民児協

上原一

町連

田中義幸

会計士

23期
H18.8.1
H20.7.31

理事

会長

北中誠

民児協

四谷 増田ふさ
牛込東部 小菅知三
牛込西部 古屋正義
貫名通生

会長

北中誠

民児協

四谷 貫名通生
笹筒町 佐藤豊子
榎町 小菅知三
若松町 鱒沢信子
大久保 乾松雄
戸塚 荻原昌昭
落合第一 二上映子
落合第二 多田敦子
落合第二 宮嶋忍
柏木 宮原敏嵩
角 浅井紀子
関根トシ子

町連

鈴木豊三郎
前田昇

保護司

田村靖之

学識

六田文秀

商工・商連

喜多崇介

福祉施設

都留和光

福祉団体

西村美智代

常務理事

金子良江

淀橋東部 横山佳明
乾松雄
二上映子
宮原敏嵩

淀橋西部 鱒沢信子

落合 二上映子

落合第一 宮嶋忍

落合第二 二上映子

大久保 乾松雄

若松町 鱒沢信子

榎町 小菅知三

笹筒町 佐藤豊子

四谷 貫名通生

角 関根トシ子

宮原敏嵩

宮嶋忍

落合第一 多田敦子

落合第二 浅井紀子

角 関根トシ子

[任期期間中の地区の変更後]

町連

鈴木豊三郎
前田昇

保護司

岡玲子

学識

佐野栄三郎

商工・商連

喜多崇介

福祉施設

鈴木祐子
都留和光

福祉団体

西村美智代

常務理事

伊藤陽子

監事

民児協

藤本龍美
船木充実

町連

原田英明

会計士

田中義幸

26期
H24.8.1
H26.7.31

理事

会長

北中誠

民児協

四谷 貫名通生
笹筒町 佐藤豊子
榎町 小菅知三
若松町 鱒沢信子
大久保 乾松雄
戸塚 宮原敏嵩
落合第一 多田敦子
落合第二 浅井紀子
角 関根トシ子

町連

鈴木豊三郎

長谷川智行
佐田俊彦

監事

藤本龍美

町連

上原一
原田英明

会計士

田中義幸

24期
H20.8.1
H22.7.31

理事

会長

北中誠

民児協

四谷 貫名通生
笹筒町 佐藤豊子
榎町 小菅知三
若松町 鱒沢信子
大久保 乾松雄
落合第一 二上映子
落合第二 宮嶋忍
柏木 宮原敏嵩
角 関根トシ子

前田昇

保護司

田村靖之

学識

六田文秀

商工・商連

喜多崇介

福祉施設

都留和光

福祉団体

西村美智代

常務理事

伊藤陽子

監事

民児協

船木充実

町連

原田英明

会計士

伊藤嘉基

26期
H24.7.1
H26.6.30

<p>● 区議会議員</p> <p>宮坂俊文 吉住はるお 有馬としろう 豊島あつし 野もとあきとし 井下田栄一 田中のりひで 沢田あゆみ おのけん一郎 鈴木ひろみ</p>	<p>● 各種団体</p> <p>高齢クラブ 世継信一 障団体 矢沢正春 女性支援 細金和子 子育て支援 西美知子 青少年 守重有子 商店連合 大室新吉 経済労働 久保雅延 司法書士会 萩原信博 社会福祉士会 西山博之</p>	<p>● 福祉施設</p> <p>田村寛</p>	<p>● 医師会</p> <p>岡田昌之 平澤精一</p>	<p>● 学識</p> <p>岩佐直径 成富正信</p>	<p>● 行政</p> <p>酒井敏男(退任) 小柳俊彦</p>
---	---	--------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------

<p>● 区議会議員</p> <p>吉住はるお</p>	<p>● 保護司会</p> <p>嶋田堯嗣 守谷幸夫</p>	<p>● 町連</p> <p>四谷 大熊勝 笹筒町 吉野邊満洲男 榎町 加藤英男 若松町 露木勝 大久保 吉田孝 戸塚 伊澤實 落合第一 浅見幹夫 落合第二 町田美智雄 柏木 谷頭美子 西新宿 高倉進 区役所 新井淳</p>	<p>● 民児協</p> <p>四谷 井上ノブ子 笹筒町 志村泰子 榎町 吉澤照雄 若松町 多賀敏雄 大久保 竹内武徳 戸塚 飯牟礼恵美子 落合第一 太田原迪子 落合第二 小暮三代子 柏木 芹澤エミ子 角筈 長谷川勝子</p>
-----------------------------	------------------------------------	--	---

<p>● 各種団体</p> <p>高齢クラブ 川上春雄 障団体 矢沢正春 女性支援 細金和子 子育て支援 西美知子 青少年 柳川信子 商店連合 大室新吉 経済労働 久保雅延 司法書士会 大津寛 社会福祉士会 長谷川洋昭</p>	<p>● 福祉施設</p> <p>田村寛</p>	<p>● 医師会</p> <p>星野洋</p>	<p>● 学識</p> <p>岩佐直径 成富正信</p>	<p>● 行政</p> <p>赤堀充男 山田秀之</p>	<p>● 区議会議員</p> <p>豊島あつし 井下田栄一 沢田あゆみ 鈴木ひろみ</p>
---	--------------------------	-------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---